

文化庁委託 日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業

長野県日本語交流員養成事業 報告書

実施期間

平成30年7月23日 ～ 平成31年3月20日

平成31年4月23日 ～ 令和2年3月18日

令和2年5月13日 ～ 令和3年3月19日

長野県

目次

目次	1
1. 事業概要	3
1.1 事業名称	3
1.2 事業実施期間	3
1.3 事業目的	3
1.4 事業を構成する取組み	4
1.5 実施体制	4
1.6 事業の流れ	5
2. 事業の組み立て	5
2.1 運営委員会	5
3. カリキュラム（教育課程）の検討	6
3.1 教育課程検討委員会	6
3.1.1 検討内容（1年目（平成30年度））	6
3.1.2 検討内容（2年目（令和元年度））	12
3.2 策定したカリキュラム	13
4. 教材の検討・開発	18
4.1 教材の検討・開発委員会	18
4.1.1 検討内容（1年目（平成30年度））	18
4.1.2 検討内容（2年目（令和元年度））	19
4.2 教材テーマ及び執筆者	20
4.3 日本語交流員養成研修教材（初期・スキルアップ）	21
5. 養成・研修の実施	21
5.1 日本語交流員初期研修	21
5.1.1 研修内容（1年目（平成30年度））	22
5.1.2 研修内容（2年目（令和元年度））	25
5.1.3 研修内容（3年目（令和2年度））	28
5.2 日本語交流員スキルアップ研修	30
5.2.1 研修内容（2年目（令和元年度））	31
5.2.2 研修内容（3年目（令和2年度））	34

6. 事業の普及	38
6.1 長野県日本語教育大会	38
7. 事業評価	40
7.1 1年目（平成30年度）における評価.....	40
7.1.1 評価検証委員会	40
7.2 2年目（令和元年度）の評価	42
7.2.1 評価検証委員会	42
7.3 3年目（令和2年度）及び3年間（平成30年度～令和2年度）の評価.....	43
7.3.1 モデル日本語教室アンケート	43
7.3.2 評価委員会	50
8. 今後の展望	53
資料編	54

1. 事業概要

1.1 事業名称

平成 30 年度（2018 年度）

長野県モデル日本語学習支援者養成・研修カリキュラム開発事業

令和元年度（2019 年度）

長野県モデル日本語学習支援者（日本語交流員）養成・研修カリキュラム開発事業

令和 2 年度（2020 年度）

日本語交流員養成事業

1.2 事業実施期間

平成 30 年度

平成 30 年 7 月 23 日～平成 31 年 3 月 20 日（8 か月間）

令和元年度

平成 31 年 4 月 23 日～令和 2 年 3 月 18 日（11 か月間）

令和 2 年度

令和 2 年 5 月 13 日～令和 3 年 3 月 19 日（11 か月間）

1.3 事業目的

長野県が目指す「日本語教室を多文化共生の拠点とした地域づくり」を推進するため、多文化共生や日本語学習支援に関心のある人材を掘り起こすとともに、日本語交流員に望まれる資質・能力※を身に付けた人材を養成する。また、県内外に対する日本語交流員の概念の普及を図り、それぞれの地域で日本語交流員養成に向けた取組の機運を醸成することで、日本語教育人材を活用した多文化共生の地域づくりを実現する。

※日本語交流員に望まれる資質・能力は、文化庁の「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」で示されている「日本語教育人材に共通して求められる基本的な資質・能力」と「日本語学習支援者に望まれる資質・能力」に長野県が求める人材に望まれる資質・能力を加えたもの。（詳細は 3.2 を参照）

	知識	技能	態度
日本語学習支援者	(1) 日本語や日本文化、社会、多文化共生に対する一般的な知識・理解を持っている。	(1) 分かりやすく伝えるために、学習者に合わせて自身の日本語を調整することができる。	(1) 学習者の背景や現状を理解しようとする。
	(2) 日本語教育に携わる機関・団体及び関係者による支援体制と自らに期待される役割について理解している。	(2) 学習者の発話を促すために、耳を傾けるとともに自身の発話を調整することができる。	(2) 学習者の言語や文化を尊重し、対等な立場で接しようとする。
	(3) 学習者の来日の経緯、国や言語・文化背景、日本語の学習目的に対する一定の知識を持っている。	(3) 日本語教育コーディネーターや日本語教師と共に、日本語学習を支援することができる。	(3) 学習者や支援者などと良好な対人関係を築こうとする。
	(4) 異文化理解や異文化間コミュニケーション、コミュニケーション能力に関する基礎的な知識を持っている。	(4) 学習者の状況を観察し、日本語教師や日本語教育コーディネーターの助言を得ながら、学習方法や学習内容を学習者に合わせて工夫することができる。	(4) 学習者が自ら学ぶ力を育み、その学びに寄り添おうとする。
	(5) 日本語の構造や日本語学習支援に関する基本的な知識を持っている。		(5) 異なる考えや価値観を持つ他者と協働できる柔軟性を持つようとする。

(出典) 文化庁「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」p. 34

1.4 事業を構成する取組み

本事業は、以下の5つの取組みから構成されている。

- (1) 事業全体の組み立て：運営委員会
- (2) 教育課程の検討：教育課程検討委員会
- (3) 教材の検討・開発：教材の検討・開発委員会
- (4) 養成・研修の実施：日本語交流員養成研修（初期・スキルアップ）
- (5) 事業評価：評価（検証）委員会、モデル日本語教室アンケート

1.5 実施体制

本事業は長野県県民文化部文化政策課多文化共生・パスポート室（H30～R1：国際課）を事務局とし、県内外の有識者を委員として実施した（研修講師は5.養成・研修の実施を参照）。

委員一覧（順不同・敬称略）

委員会名	氏名	所属・役職
運営委員会	石井 恵理子（委員長）	東京女子大学・教授
	神吉 宇一	武蔵野大学・准教授
	土井 佳彦	NPO 法人多文化共生リソースセンター東海・代表理事
	笠原 理恵子	一般社団法人多文化共生センターながの・代表理事
	佐藤 佳子	NPO 法人中信多文化共生ネットワーク・日本語教育アドバイザー
	春原 直美	公益財団法人長野県国際化協会・相談役
教育課程 検討 委員会	佐藤 友則（委員長）	信州大学・教授
	神吉 宇一	武蔵野大学・准教授
	春原 憲一郎	公益財団法人京都日本語教育センター 京都日本語学校・校長
	佐藤 佳子	NPO 法人中信多文化共生ネットワーク・日本語教育アドバイザー
	春原 直美	公益財団法人長野県国際化協会・相談役
教材の検討 ・開発 委員会	徳井 厚子（委員長）	信州大学・教授
	神吉 宇一	武蔵野大学・准教授
	坂口 和寛	信州大学・准教授
	大橋 敦夫（R1）	上田女子短期大学・教授
	岡宮 美樹	信州大学・非常勤講師
	春原 直美	公益財団法人長野県国際化協会・相談役
評価（検証） 委員会	石井 恵理子（H30、R1 （いずれも委員長））	東京女子大学・教授
	神吉 宇一（R2 委員長）	武蔵野大学・准教授
	土井 佳彦	NPO 法人多文化共生リソースセンター東海・代表理事
	笠原 理恵子（H30）	一般社団法人多文化共生センターながの・代表理事
	佐藤 佳子（H30、R2）	NPO 法人中信多文化共生ネットワーク・日本語教育アドバイザー
	春原 直美（H30）	公益財団法人長野県国際化協会・相談役
	マキナリー 浩子（R1）	公益財団法人長野県国際化協会・理事長

1.6 事業の流れ



2. 事業の組み立て

2.1 運営委員会

事業全般について検討するため、運営委員会を設置した。

(1) 開催日時

平成30年8月15日 13:30～15:30

(2) 検討事項

- ・本事業で養成する日本語交流員（日本語学習支援者）に係る検討

(3) 議論の内容

- ・各種委員会を進めていく中で、日本語交流員の定義、役割を明確にする必要がある
- ・多様な人材がいる地域日本語教室における日本語交流員の位置づけを明確にする必要がある
- ・地域をよりよくするための仕組みづくりであるという観点が重要

3. カリキュラム（教育課程）の検討

3.1 教育課程検討委員会

「日本語交流員養成・研修 カリキュラム」策定のため、平成30年度から令和元年度にかけて有識者からなる検討委員会を設置し、平成30年度に3回、令和元年度に2回の検討委員会を開催した。

(1) 開催日時

平成30年度	平成30年	9月14日	10:00～12:00
	平成30年	10月4日	13:00～15:00
	平成30年	10月30日	13:00～15:00
令和元年度	令和元年	6月3日	13:30～15:30
	令和元年	6月17日	13:30～15:30

(2) 検討事項

- ・長野県内で実施されている日本語学習支援の現状と課題分析
- ・長野県の地域特性に適した日本語交流員（日本語学習支援者）を養成するための教育内容（カリキュラム）の策定

【カリキュラムに掲げる項目】

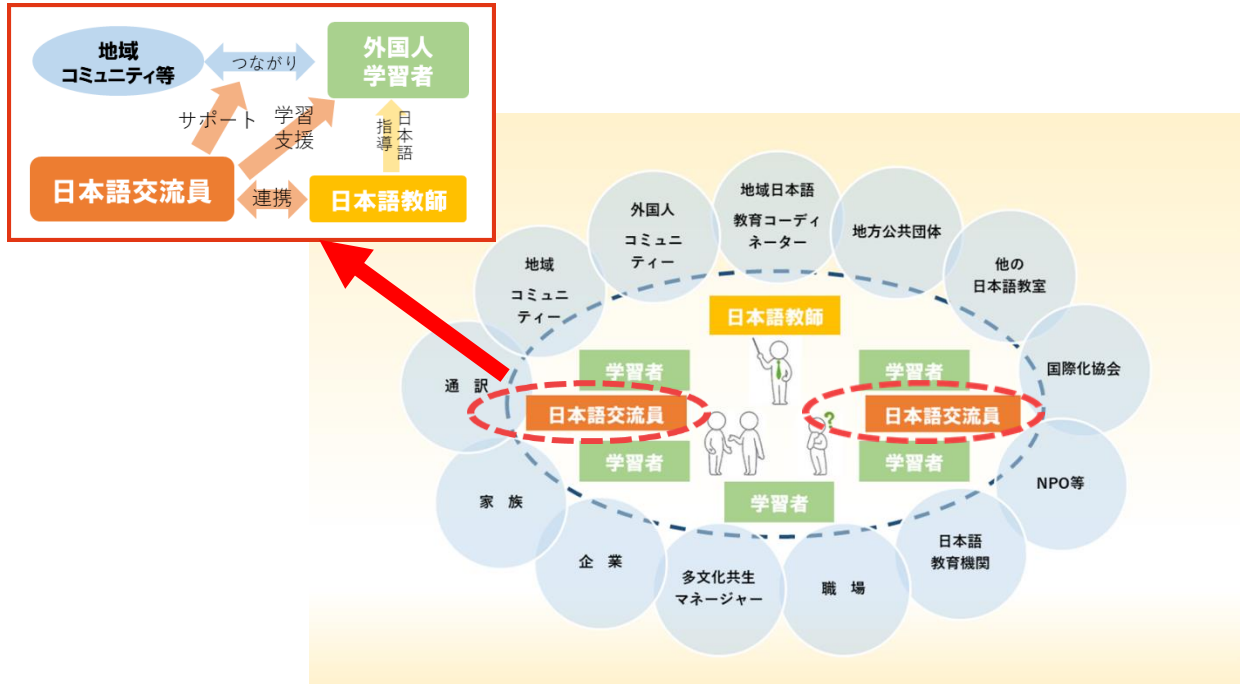
目的、目標、対象、定義（地域日本語教育コーディネーター、日本語教師、日本語交流員、学習者）、役割、日本語交流員に求められる資質・能力、カリキュラム内容（初期研修・スキルアップ研修）

3.1.1 検討内容（1年目（平成30年度））

1年目である平成30年度の教育課程検討委員会では、カリキュラムの基盤となる長野県の目指す方向性から検討を始め、初期研修のカリキュラム（暫定）を策定した。

(1) 長野県が目指す地域日本語教室の姿について

- ・地域にある日本語教室であるため、地域づくり、社会づくりに資するものであることが望ましい
- ・交流活動だけでなく、学びにつながることも重要。そのために、コーディネートの専門家としての地域日本語教育コーディネーター、日本語指導の専門家としての日本語教師、交流活動や学習支援ができる日本語交流員が連携することが必要である
- ・目指す地域日本語教室の姿は、形式が異なる地域日本語教室を否定するものではなく、互いが地域資源としての連携先となり得る



長野県が目指す地域日本語教室の姿

(2) 日本語交流員の定義、役割について

- ・日本語交流員は、日本語を直接指導する存在ではないことを含め、地域日本語教育コーディネーターや日本語教師と、日本語交流員の役割の違いを明確にすることが必要である
- ・日本語交流員は日本語教師等の専門職と連携して、学習者とコミュニケーションをとる者
- ・地域の多文化共生を実現するための存在であること、地域住民であるということが重要となる

(3) 日本語交流員に求められる資質・能力、カリキュラム内容について

- ・「資質・能力」は受講者にとって、長野県がどのような社会を目指しているのか、どのような人材を求めているのかを示す項目とすべき
- ・各地域の日本語教育・日本語学習支援の特性を知ることが必要である
- ・言語に関わる領域として、日本語の構造を理解したうえで支援してもらいたい
- ・文化庁「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）(H30.3月（当時）」で報告されている資質・能力に加えて、地域特性に関わることや地域とのつながりについて記すことが望ましい
- ・実際の日本語教室を見学に行くことは重要だが、研修受講者の背景（日本語学習支援経験の有無等）も様々であるため、オプションとしての位置づけが妥当である

(4) 暫定カリキュラム（初期研修）

長野県日本語交流員養成・研修 カリキュラム

1 目的

外国人の方が長野県に住みたいと思えるような、豊かな生活、幸せな暮らしができ、さらには地域が豊かになるような日本語学習の場（地域交流の場）であり、日本語交流員が学習者とともに成長していく。

2 目標

外国人と地域住民が双方向で学び合い、楽しく参加できて、日本語学習につながり地域の暮らしの向上に役立つ。地域住民も参加し、外国人と接することで異文化理解を図る。

積極的に地域住民として学習者とコミュニケーションをとる。

3 対象

地域住民の意識を変えていく重要な役割ができ、多文化共生に興味のある者

4 定義

(1) 地域日本語教育コーディネーター

行政、地域の関係機関、関係者との連絡調整を行い、日本語教室の運営、日本語教育のプログラム作成を行う者。また、地域日本語教室とをつなぐ役割をする者。

(2) 日本語教師

日本語を直接学習者に教え、言葉と学習者を繋ぐ。

地域の日本語教育体制の状況を分かっており、地域の日本語教育体制と連携をしていく者。

(3) 日本語交流員（文化審議会国語分科会の報告における「日本語学習支援者」のことをいう。）

日本語を学習者に直接教えるのではなく、地域と学習者を繋ぐ。(1)、(2)の日本語専門職と連携しながら学習者と共に成長する者。

(4) 学習者

県内に生活する外国人（生活者としての外国人）

【日本語教育人材の役割の整理】

日本語教師	日本語学習者に直接日本語を指導する者
日本語教育コーディネーター	日本語教育の現場で日本語教育プログラムの策定・教室運営・改善を行ったり、日本語教師や日本語学習支援者に対する指導・助言を行うほか、多様な機関との連携・協力を担う者
日本語学習支援者	日本語教師や日本語教育コーディネーターと共に学習者の日本語学習を支援し、促進する者

※文化審議会国語分科会「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」平成30年2月より抜粋

5 資質・能力

1 共通	<p>(1)日本語を正確に理解して的確に運用できる能力を持っていること。</p> <p>(2)多様な言語・文化・社会的背景を持つ学習者と接する上で、文化的多様性を理解し尊重する態度を持っていること。</p> <p>(3)コミュニケーションを通じてコミュニケーションに学ぶという日本語教育の特性を理解していること。</p> <p>※指導者と学習者が固定的な関係でなく、相互に学び、教え合う実際的なコミュニケーション活動</p>
2 知識	<p>(1)日本語や日本文化、社会、多文化共生に対する一般的な知識・理解を持っている。</p> <p>(2)日本語教育に携わる機関・団体及び関係者による支援体制と自らに期待される役割について理解している。</p> <p>(3)学習者の来日の経緯、国や言語・文化背景、日本語の学習目的に対する一定の知識を持っている。</p> <p>(4)異文化理解や異文化間コミュニケーション、コミュニケーション能力に関する基礎的な知識を持っている。</p> <p>(5)日本語の構造や日本語学習支援に関する基本的な知識を持っている。</p> <p>(6)地域の文化やその地域での生活に必要な知識を持っている。</p> <p>(7)長野県内活動地域の在住外国人の特性を理解している。</p> <p>(8)相手の文化や日本文化の双方を理解し、多文化共生の知識を持っている。</p>
3 技能	<p>(1)分かりやすく伝えるために、学習者に合わせて自身の日本語を調整することができる。</p> <p>(2)学習者の発話を促すために、耳を傾けると共に自身の発話を調整することができる。</p> <p>(3)日本語教育コーディネーターや日本語教師とともに、日本語学習を支援することができる。</p> <p>(4)学習者の状況を観察し、日本語教師や日本語教育コーディネーターの助言を得ながら、学習方法や学習内容を学習者に合わせて工夫することができる。</p> <p>(5)日本語を教えるのではなく、コーディネーターや日本語教師と共に、学習者と積極的にコミュニケーションをとることができる。話し相手になることができる。</p> <p>(6)地域によって文化と歴史、住民が違うということを理解し、伝えることができる。</p> <p>(7)やさしい日本語を使って外国人と地域住民とをつなぐ（両者に伝えられる）ことができる。</p>
4 態度	<p>(1)学習者の背景や現状を理解しようとする。</p> <p>(2)学習者の言語や文化を尊重し、対等な立場で接しようとする。</p> <p>(3)学習者や支援者などと良好な対人関係を築こうとする。</p> <p>(4)学習者が自ら学ぶ力を育み、その学びに寄り添おうとする。</p> <p>(5)異なる考えや価値観を持つ他者と協働できる柔軟性を持つようとする。</p> <p>(6)日本語学習支援者としての立場を理解し、学習者と対等に双方に学ぼうとする。</p>
5 その他	<p>(1)それぞれの地域に合った支援体制及び自身が活動する地域の地域特性を理解している。</p> <p>※地域特性とは、活動する地域に在住する外国人の特性等</p>

6 カリキュラム内容

(1) 単位時間数：60分（1単位時間当たり）×15回（目安1日3時間×5日）

(2) 教育内容

	テーマ	目標 (身に付ける 資質・能力)	内容	方法
1	多文化共生（学習者の背景に対する理解） ～外国人の特性を知ろう～	1 (2) 2 (1)(3)(8) 3 (6) 4 (1)(5) 5 (1)	(1)外国人をめぐる国内外の動き ・国の施策（在留資格等） ・国内の在留外国人の状況 ・主な出身国の文化背景（国の状況） ・来日理由、日本における生活状況など (2)県内の状況 ・長野県多文化共生施策 ・県内の在留外国人の状況 (3)地域の状況 ・市町村及び近隣市町村の多文化共生施策 ・在留外国人の状況 (4)多文化共生とは (5)「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標	講義、 振り返り
2	長野県、地域の独自性～どんな特徴があり、どんな日本語教室があり学習者があるのかを知ろう～	1 (2) 2 (2)(6)(7) (8) 3 (6) 4 (1)(2)(6) 5 (1)	(1)県内の外国人の特性、生活事情等（他県の状況との違いを理解する） (2)地域の外国人の特性、歴史的背景、生活事情等（他地域の状況との違いを理解する） (3)地域の支援者の状況 (4)地域日本語教育（地域の日本語教室の紹介）の実施体制と支援者の役割 (5)長野県の新しい学びの場とは	講義、 クイズ形式演習
3	やさしい日本語 ～言語としてやさしい日本語って何。どう使うの？～	1 (1)(3) 2 (2)(5)(8) 3 (1)(2)(4) (5)(6)(7)	(1)やさしい日本語とは (2)やさしい日本語を使って身近な文化等を伝える方法 (3)日本語の構造 (4)生活支援や地域の人との繋ぎ、地域文化を紹介する上で必要な日本語の構造	講義、 演習

※目標はP2の「5 資質・能力」の数字を記載。

4	多文化コミュニケーション～コミュニケーション～コミュニケーションから相手の文化を尊重しよう～	1 (1)(3) 2 (4) 3 (2)(4)(5) (6) 4 (3)(5)	(1)異文化理解とは ※相手の文化の尊重と理解 (2)多文化コミュニケーションとは (3)日本語交流員としての傾聴 (4)日本語交流員としての発話調整	講義、 演習
5	日本語学習を支援する側としての心得～実際に新しい学びの場を想定して実践してみよう～	1 (3) 2 (5) 3 (3)(4)(5) 4 (4)(5)(6) 5 (1)	(1)これまでの研修の振り返り (2)日本語交流員の心得、役割分担等 ※支援者とはどのような資質が求められるか。 (3)既存の地域日本語教室との連携 (4)その他 生活支援としての相談の受け方、自殺対策 (ゲートキーパー)、外国人と地域住民とを繋ぐ方法、生活する上での情報収集の方法、情報の発信・公開（広報）、個人情報の保護・管理 (5)新しい学びの場を想定した実践演習	講義、 グループ 演習
オ ブ シ ョ ン	地域日本語教室の見学		(1)地域の日本語教室を見学	見学

7 情報リソース

- 全国で長野県内の地域に似た特性のある地域との比較（事例の紹介）

3.1.2 検討内容（2年目（令和元年度））

2年目の令和元年度は、平成30年度に策定したカリキュラム内容（初期（暫定））の見直しを図るとともに、初期研修及びスキルアップ研修で身に付ける資質について明確化、研修内容の整理により、カリキュラムの質の向上を図った。

(1) 日本語交流員に求められる資質・能力について

- ・「1共通」～「5その他」について、初期、スキルアップでグラデーションをつける
- ・「1共通」については、初期、スキルアップで共通して重視する
- ・「2知識」「3技能」については、初期でウエイトを重くする
- ・「4態度」「5その他」については、スキルアップでウエイトを重くする

(2) カリキュラム内容（初期研修）について

- ・研修の冒頭で、日本語交流員に求められる役割を示すことが必要なため、日本語教育人材について道筋（日本語教師のなり方等）を提示することが必要である。そのため、テーマ1に「(1)オリエンテーション」を追加する
- ・研修冒頭に受講者の想いをディスカッションする場が必要なため、テーマ1に「(5) “よい” 支援・日本語教室とは」を追加する
- ・講座の時期に合わせ柔軟な内容とする方がよいため、テーマ5の「(3)その他」の内容を、「外国人支援の様々な事例紹介」に変更する
- ・動画投稿サイト（YouTube等）の視聴による方法も可能にするため、オプション「地域日本語教室の見学」を「最近の外国人支援や日本語教室の事例参照」に変更する
- ・受講後アンケートに内省ができるようコーディネーションを入れた内容を検討する

(3) カリキュラム内容（スキルアップ研修）について

- ・テーマ1を初期研修の振り返りを通して、各個人の内省を促す内容にするべき
- ・テーマ1及びテーマ5では、「市民として地域がこんなふうになるといいという絵」の共有をできるとよい
- ・テーマ2では、日本語交流員として活動するにあたっては「地域の外国人支援の繋ぎ先」を知っていることは重要であるため、内容としていれるとよい
- ・テーマ3は日本語交流員としての活動に生かされる内容として、日本語寄りではなく、より支援寄りの内容に。どのように寄り添っていくかを体験できるとよい
- ・スキルアップ研修ではより実践的（主体的）とする必要があり、実践活動は必須。グループ実践は、「共通の関心のある人でグルーピング→プランニング→実践→レポート作成→プレゼンテーション→議論の流れ」とするとよい
- ・外国人自身の課題を発見し、自分の支援の課題を設定、実際に実践、振り返りという実践を通して、PDCAを回す体験をして学ぶ機会にしてほしい
- ・テーマ4では、グループごと実践のプレゼンテーション実施と振り返り、ディスカッションを実施すること
- ・テーマ5では、日本語交流員の活躍の場を知ってもらい、活躍してもらおうための場とする

3.2 策定したカリキュラム

平成30年度から令和元年度まで、計5回の委員会を経て、「日本語交流員養成・研修 カリキュラム」を以下のとおり策定した。

I 目的

誰もが暮らしやすい地域を実現するための日本語学習支援について考え、支援者として学び続けることができるとともに、地域における多文化共生を推進する担い手となることができる。

II 目標

外国人と地域住民が双方向で学び合い、楽しく参加できて、日本語学習につながり地域の暮らしの向上に役立つ。地域住民も参加し、外国人と接することで異文化理解を図る。積極的に地域住民として学習者とコミュニケーションをとる。

III 対象

地域住民の意識を変えていく重要な役割ができ、多文化共生に興味のある者

IV 定義

(1) 地域日本語教育コーディネーター

行政、地域の関係機関、関係者との連絡調整を行い、日本語教室の運営、日本語教育のプログラム作成を行う者。また、地域日本語教室とをつなぐ役割をする者。

(2) 日本語教師

日本語を直接学習者に教え、言葉と学習者を繋ぐ。

地域の日本語教育体制の状況を分かっており、地域の日本語教育体制と連携をしていく者。

(3) 日本語交流員（文化審議会国語分科会の報告における「日本語学習支援者」のことをいう。）

日本語を学習者に直接教えるのではなく、地域と学習者を繋ぐ。(1)、(2)の日本語専門職と連携しながら学習者と共に成長する者。

(4) 学習者

県内に生活する外国人（生活者としての外国人）

【日本語教育人材の役割の整理】	
日本語教師	日本語学習者に直接日本語を指導する者
日本語教育コーディネーター	日本語教育の現場で日本語教育プログラムの策定・教室運営・改善を行ったり、日本語教師や日本語学習支援者に対する指導・助言を行うほか、多様な機関との連携・協力を担う者
日本語学習支援者	日本語教師や日本語教育コーディネーターと共に学習者の日本語学習を支援し、促進する者

※文化審議会国語分科会「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版」平成31年3月より抜粋

V 日本語交流員に求められる資質・能力

1 共通	<p>(1) 日本語を正確に理解して的確に運用できる能力を持っていること。</p> <p>(2) 多様な言語・文化・社会的背景を持つ学習者と接する上で、文化的多様性を理解し尊重する態度を持っていること。</p> <p>(3) コミュニケーションを通じてコミュニケーションに学ぶという日本語教育の特性を理解していること。</p> <p>※指導者と学習者が固定的な関係でなく、相互に学び、教え合う実際的なコミュニケーション活動</p>
2 知識	<p>(1) 日本語や日本文化、社会、多文化共生に対する一般的な知識・理解を持っている。</p> <p>(2) 日本語教育に携わる機関・団体及び関係者による支援体制と自らに期待される役割について理解している。</p> <p>(3) 学習者の来日の経緯、国や言語・文化背景、日本語の学習目的に対する一定の知識を持っている。</p> <p>(4) 異文化理解や異文化間コミュニケーション、コミュニケーション能力に関する基礎的な知識を持っている。</p> <p>(5) 日本語の構造や日本語学習支援に関する基本的な知識を持っている。</p> <p>(6) 地域の文化やその地域での生活に必要な知識を持っている。</p> <p>(7) 長野県内活動地域の在住外国人の特性を理解している。</p> <p>(8) 相手の文化や日本文化の双方を理解し、多文化共生の知識を持っている。</p>
3 技能	<p>(1) 分かりやすく伝えるために、学習者に合わせて自身の日本語を調整することができる。</p> <p>(2) 学習者の発話を促すために、耳を傾けると共に自身の発話を調整することができる。</p> <p>(3) 日本語教育コーディネーターや日本語教師とともに、日本語学習を支援することができる。</p> <p>(4) 学習者の状況を観察し、日本語教師や日本語教育コーディネーターの助言を得ながら、学習方法や学習内容を学習者に合わせて工夫することができる。</p> <p>(5) 日本語を教えるのではなく、コーディネーターや日本語教師と共に、学習者と積極的にコミュニケーションをとることができる。話し相手になることができる。</p> <p>(6) 地域によって文化と歴史、住民が違うということを理解し、伝えることができる。</p> <p>(7) やさしい日本語を使って外国人と地域住民とをつなぐ（両者に伝えられる）ことができる。</p>
4 態度	<p>(1) 学習者の背景や現状を理解しようとする。</p> <p>(2) 学習者の言語や文化を尊重し、対等な立場で接しようとする。</p> <p>(3) 学習者や支援者などと良好な対人関係を築こうとする。</p> <p>(4) 学習者が自ら学ぶ力を育み、その学びに寄り添おうとする。</p> <p>(5) 異なる考えや価値観を持つ他者と協働できる柔軟性を持つようとする。</p> <p>(6) 日本語交流員としての立場を理解し、学習者と対等に双方に学ぼうとする。</p>
5 その他	<p>(1) それぞれの地域に合った支援体制及び自身が活動する地域の地域特性を理解している。</p> <p>※地域特性とは、活動する地域に在住する外国人の特性等</p>

VI 内容

【初期研修】

テーマ	目 標 (身に付ける 資質・能力)	内 容	方 法	時間 数
1	日本語交流員の役割 と多文化共生（学習者 の背景に対する理解） ～日本語交流員の役割を 学ぶとともに多様性を認 め合おう～	(1) オリエンテーション ～日本語交流員に求められる役割、日本語教 育人材とは～ (2) 外国人をめぐる国内外の動き ・国の施策（在留資格等） ・国内の在留外国人の状況 ・主な出身国の文化背景（国の状況） ・来日理由、日本における生活状況など (3) 多文化共生とは (4) 「生活者としての外国人」に対する日 本語教育の目的・目標 (5) “よい”支援・日本語教室とは	講義、 演習 ディスカッ ション	3
2	長野県、地域の独自性 ～どんな特徴があり、ど んな日本語教室があり、 学習者がいるのかを知ろ う～	(1) 県内に在住する外国人 ・全県及び地域の状況 (2) 多文化共生施策 ・長野県及び近隣市町村 (3) 外国人を取り巻く県内の特性、生活 事情等（他県との違いを理解する） (4) 外国人を取り巻く地域の特性、歴史 的背景、生活事情等（地域の違いを理解 する） (5) 地域の支援者の状況 (6) 地域日本語教育の実施体制と支援者 の役割（地域の日本語教室の紹介） (7) 日本語交流員の活躍の場	講義、 クイズ形式 演習	3
3	やさしい日本語 ～日本語交流員として身 につけておくべき日本語 のスキル～	(1) やさしい日本語とは (2) やさしい日本語を使って身近な文化 等を伝える方法 (3) 日本語の構造 (4) 生活支援や地域の人との繋ぎ、地域 文化を紹介する上で必要な日本語の構 造	講義、 演習	3

4	多文化コミュニケーション ～コミュニケーションから相手の文化を尊重しよう～	1 (1) (3) 2 (4) 3 (2) (4) (5) (6) 4 (3) (5)	(1) 異文化理解とは ※相手の文化の尊重と理解 (2) 多文化コミュニケーションとは (3) 日本語交流員としての傾聴 (4) 日本語交流員としての発話調整	講義、 演習	3
5	日本語交流員として ～活動を想定し実践してみよう～	1 (3) 2 (5) 3 (3) (4) (5) 4 (4) (5) (6) 5 (1)	(1) これまでの研修の振り返り (2) 既存の地域日本語教室との連携 (3) 外国人支援の様々な事例紹介 (4) 日本語交流員としての実践演習	講義、 グループ演習	3
オ ブ シ ョ ン	最近の外国人支援や 日本語教室を知ろう		(1) 最近の外国人支援や日本語教室の事例参照（「日本語交流員の活躍の場（モデル教室等）」の見学／地域の日本語教室の映像資料視聴／既存の日本語教室以外のお互いが対等性を持ってやり取りしている現場の見学）	見学 視聴	

【スキルアップ研修】

テーマ		目標 (身に付ける 資質・能力)	内 容	方 法	時間 数
1	日本語交流員の役割 と多文化共生 ～初期研修の振り返りを 通して改めて考えてみよ う～	1 (2) 2 (7) (8) 4 (1) (5) (6) 5 (1)	(1) 初期研修受講後の振り返り (2) 私たちの地域の目指す姿 (受講者の想いを発散させる場)	演習 発表	2
2	地域のリソースと外 国人支援 ～地域のリソースを確認 して外国人支援を考えよ う～	2 (6) 4 (1) (3) 5 (1)	(1) 地域の外国人支援の繋ぎ先 (市役所等行政の担当課、関連の NPO 等) (2) 独学できる日本語学習教材(自習ド リル、e-Learning、遠隔授業等)の紹 介	講義 演習	2
3	コミュニケーション 実習 ～学習支援について、コ ミュニケーションを通し て考えよう～	1 (1) (2) (3) 3 (1) (2) (7) 4 (1) (2) (3) (4) (5) (6) 5 (1)	(1) コミュニケーション実習 (それぞれの“ライフ”の共有→作文) (2) 実践に向けたオリエンテーション (3) 実践課題の設定	実習 演習 ディスカッ ション	3
グループ実践 ※					
4	実践の振り返り ～振り返りを通して実践 について改めて考えよう ～	4 (1) (2) (3) (5) (6) 5 (1)	(1) 実践の振り返り (活動報告)	発表 演習	2
5	日本語交流員として ～長野県の多文化共生社 会を思い描こう～	1 (2) 2 (6) (7) (8) 4 (1) (5) (6) 5 (1)	(1) 研修全体の振り返り (2) 私たちの地域の目指す姿 (再度) (3) 日本語交流員の活躍の場について	ディスカッ ション 発表	3

※ 共通の関心のある受講者で グループ作成 → 支援に関するプランニング → 実践 → レポート → 発表

4. 教材の検討・開発

4.1 教材の検討・開発委員会

「日本語交流員養成・研修 カリキュラム」に即した教材を作成するため、平成30年度から令和元年度にかけて有識者からなる委員会を設置し、平成30年度に3回、令和元年度に2回の検討委員会を開催した。

(1) 開催日時

平成30年度	平成30年	11月15日	10:00~12:00
	平成30年	11月28日	13:30~15:30
	平成30年	12月13日	13:30~15:30
令和元年度	令和元年	8月7日	13:00~15:00
	令和元年	8月20日	13:30~15:30

(2) 検討事項

- ・長野県内で実施されている日本語学習支援の現状と課題分析
- ・長野県の地域特性に適した日本語交流員（日本語学習支援者）を養成するための教材の検討

4.1.1 検討内容（1年目（平成30年度））

教育課程検討委員会での議論を受け、1年目である平成30年度は初期研修の教材について検討した。（各テーマ名は、平成30年度時点のもの）

(1) 各テーマ共通の事項について

- ・学びを活性化させるために、導入として簡単な問いかけを設けるとよい
- ・知識を注入する以外に、研修を通して気づきを得られるような実感の得られる内容としたい

(2) 初期研修 テーマ1「多文化共生（学習者の背景に対する理解）」について

- ・日本語交流員として携わる学習者がどのような方たちなのか、イメージがわくような内容にしたい
- ・座学になりやすいテーマであるため、グループワーク等の形式も取り入れられるような教材にするべき
- ・地域日本語教室の地域、社会における位置づけについて考え、地域にどのようなよい影響を与えられるか投げかける内容としたい

(3) 初期研修 テーマ2「長野県、地域の独自性」について

- ・日本語交流員が活動していく中で使うことができる情報について記載する
- ・地域の特性として、長野県内に在住する外国人の歴史的な背景も記載する。その際、他都道府県と比較した長野県の特性、また、長野県内の各地域での特性について取り上げたい

(4) 初期研修 テーマ3 「やさしい日本語」について

- ・「やさしい日本語」が何かという説明が必要である。「やさしい日本語」が生まれた背景やポイントとなる情報や知識は盛り込むべき
- ・実際に「やさしい日本語」を使う場面が必要である
- ・日常の言語生活を振り返って、気づきを得られるような素材にしたい。それにより、日本語交流員の言語及びコミュニケーションへの意識が高まると思われる

(5) 初期研修 テーマ4 「多文化コミュニケーション」について

- ・実際のコミュニケーションを想像しやすくするため、ケーススタディ形式とする
- ・コミュニケーションにおいて、どんな内容を伝えるかという点と、どのように伝えるかという点の2点について考えられる時間となる教材が望ましい

(6) 初期研修 テーマ5 「日本語学習者を支援する側としての心得」について

- ・研修全体を通して何を学んだか、日本語交流員となる研修受講者が互いにディスカッションしたり可視化したりできるような教材になるとよい

4.1.2 検討内容（2年目（令和元年度））

教育課程検討委員会で策定されたカリキュラムを基に、1年目である平成30年度に作成された初期研修の教材の改善を図るとともに、スキルアップ研修の教材を作成した。活発な意見交換がなされた点は以下のとおり。

(1) 各テーマ共通の事項について

- ・初期研修の教材構成は、イントロダクション（章の目的、問いかけ、導入、キーワード）、知識（資料、グラフ等）、ワーク（2つ程度、ワークシート等）、参考資料とする
- ・スキルアップ研修の教材は実践的な取り組みが促される（受講者が主体的に取り組む）内容とする。そのため、作りこみが必要でないテーマもあり得るため、細かな形式は指定しない
- ・スキルアップ研修は、実践と振り返りと通して学ぶものとするべき

(2) スキルアップ研修 テーマ1 「日本語交流員の役割と多文化共生」について

- ・日本語交流員の役割や定義について、改めて振り返る回となるような教材がよい

(3) スキルアップ研修 テーマ3 「コミュニケーション実習」について

- ・講師が示す（あるいは受講者が選択する）テーマについて作文し、それを語れるようにすることで日本語が洗練され、相互理解が促進されるという支援活動で求められることが体験できる

(4) 研修の組み立てについて

- ・テーマ1 「日本語交流員の役割と多文化共生」は初期研修の振り返りが主な目的であり、こ

のテーマのみでは短時間で終わることが想定される。同様に、1つのテーマで1回3時間を要しないものもあると思われるため、5つのテーマを4回（1回3時間）に分けて実施する
とよい

4.2 教材テーマ及び執筆者

(1) 初期研修

テーマ		執筆者（敬称略）
1	日本語交流員の役割と多文化共生（学習者の背景に対する理解） ～日本語交流員の役割を学ぶとともに多様性を認め合おう～	武蔵野大学 准教授 神吉 宇一
2	長野県、地域の独自性 ～どんな特徴があり、どんな日本語教室があり、学習者がいるのかを知ろう～	上田女子短期大学 教授 大橋 敦夫 公益財団法人長野県国際化協会 相談役 春原 直美
3	やさしい日本語 ～日本語交流員として身につけておくべき日本語のスキル～	信州大学 准教授 坂口 和寛 信州大学 非常勤講師 岡宮 美樹
4	多文化コミュニケーション ～コミュニケーションから相手の文化を尊重しよう～	信州大学 教授 徳井 厚子
5	日本語交流員として ～活動を想定し実践してみよう～	NPO 法人中信多文化共生ネットワーク 日本語教育アドバイザー 佐藤 佳子

(2) スキルアップ研修

テーマ		執筆者（敬称略）
1	日本語交流員の役割と多文化共生 ～初期研修の振り返りを通して改めて考えてみよう～	公益財団法人長野県国際化協会 相談役 春原 直美
2	地域のリソースと外国人支援 ～地域のリソースを確認して外国人支援を考えよう～	上田女子短期大学 教授 大橋 敦夫 公益財団法人長野県国際化協会 相談役 春原 直美
3	コミュニケーション実習 ～学習支援について、コミュニケーションを通して考えよう～	武蔵野大学 准教授 神吉 宇一

4	実践の振り返り ～振り返りを通して実践について改めて考えよう～	上田女子短期大学 教授 大橋 敦夫
5	日本語交流員として ～長野県の多文化共生社会を思い描こう～	NPO 法人中信多文化共生ネットワーク 日本語教育アドバイザー 佐藤 佳子 信州大学 非常勤講師 岡宮 美樹

4.3 日本語交流員養成研修教材（初期・スキルアップ）

別添「日本語交流員養成初期研修ワークブック」及び「日本語交流員養成スキルアップ研修ワークブック」のとおり

5. 養成・研修の実施

各種委員会を経て策定・作成されたカリキュラム及び教材（ワークブック）を用いて、日本語交流員としての資質・能力を身に付けるための初期研修及びスキルアップ研修を実施した。

前年度の評価（検証）委員会で議論された課題等を次年度に活かすことで、研修の在り方を検討しながらの実施とした。

5.1 日本語交流員初期研修

(1) 研修実施地域

長野県内の地域バランスを鑑みて、県東部・北部・中部・南部からそれぞれ選定し、研修を実施した。

平成30年度 県東部 上田会場

県中部 松本会場

令和元年度 県北部 長野会場

県南部 伊那会場

令和2年度 県南部 駒ヶ根会場

(2) 受講対象者

多文化共生に興味があり、地域で日本語に不自由な外国人の方への生活に必要な日本語学習を支援する活動をしたいと思っている方

(3) 修了要件

全5回中4回以上出席した者を修了者とし、修了証書を授与する。なお、本初期研修を修了した者を「日本語交流員」とする。

(4) 受講者数

139 名（平成 30 年度～令和 2 年度）

(5) 修了者数（日本語交流員養成数）

117 名（平成 30 年度～令和 2 年度）

日本語交流員養成初期研修受講者・修了者数一覧

（単位：人）

年度	会場	受講者		修了者	
			未経験*		未経験*
H30	上田	40	20	34	18
	松本	23	9	22	8
R1	伊那	19	12	14	11
	長野	29	18	23	14
R2	駒ヶ根	28	13	24	11
	-	-	-	-	-
合計		139	72	117	62

※日本語学習支援未経験者

5.1.1 研修内容（1 年目（平成 30 年度））

(1) 主催・共催

主催 長野県

共催 上田市（上田会場）、松本市（松本会場）

(2) 研修会場及び日時

上田会場 市民プラザ・ゆう

平成 31 年 1 月 26 日～3 月 2 日のうち土曜日 5 日間 15：00～18：00

松本会場 松本中央公民館

平成 31 年 1 月 20 日～2 月 24 日のうち日曜日 5 日間 13：30～16：30

(3) 受講者数

上田会場 40 名（うち日本語学習支援未経験者 20 名）

松本会場 23 名（うち日本語学習支援未経験者 9 名）

(4) 修了者数（日本語交流員養成数）

上田会場 34 名（うち日本語学習支援未経験者 18 名）

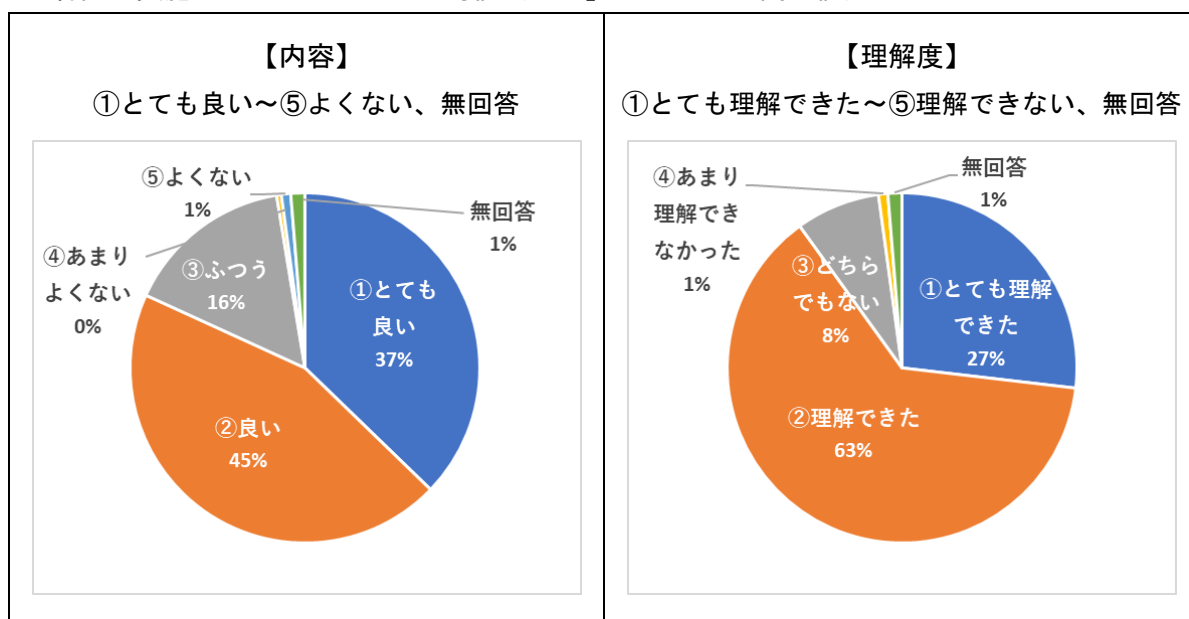
松本会場 22 名（うち日本語学習支援未経験者 8 名）

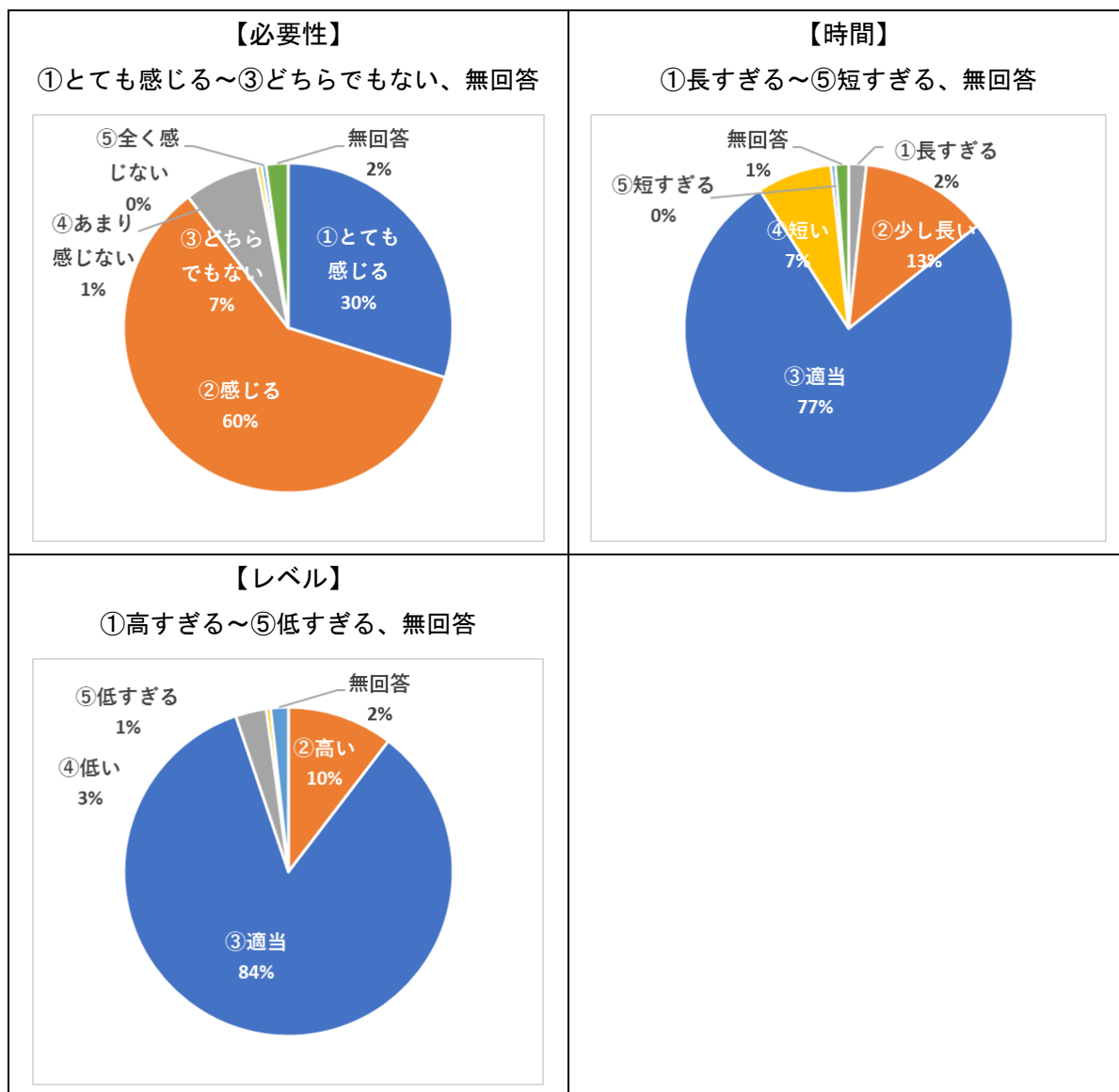
(5) 研修テーマ及び講師

テーマ（実施当時）		実施回及び講師（敬称略）
1	多文化共生（学習者の背景に対する理解）～外国人の特性を知ろう～	上田①：公益財団法人長野県国際化協会 相談役 春原 直美 松本①：武蔵野大学 准教授 神吉 宇一
2	長野県、地域の独自性～どんな特徴があり、どんな日本語教室があり、学習者がいるのかを知ろう～	上田②：上田女子短期大学 教授 大橋 敦夫 松本②：公益財団法人長野県国際化協会 相談役 春原 直美
3	やさしい日本語～言語としてやさしい日本語って何。どう使うの？～	上田④：信州大学 非常勤講師 岡宮 美樹 松本③：信州大学 准教授 坂口 和寛
4	多文化コミュニケーション～コミュニケーションから相手の文化を尊重しよう～	上田③・松本④：信州大学 教授 徳井 厚子
5	日本語学習を支援する側としての心得～実際に新しい学びの場を想定して実践してみよう～	上田⑤：公益財団法人長野県国際化協会 相談役 春原 直美 松本⑤：NPO 法人 中信多文化共生ネットワーク 日本語教育アドバイザー 佐藤 佳子

(6) 受講者アンケート

各回で実施したアンケートの平均値（「0%」は0～1%の間の値）





(アンケートから抜粋)

<p>テーマ 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「多文化共生」が何か理解できた。 ・ディスカッションで参加者同士の考えを知ることができてよかった。
<p>テーマ 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情を知った上で活動できる。 ・具体的な地域名も出た内容でよかった。
<p>テーマ 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言語的なもの、会話的なもの、各々を「やさしい日本語」にする調整が必要と感じた。 ・いつも使っている言葉が全くやさしくないと自覚した。
<p>テーマ 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の感情を考えることは重要だと思った。 ・日本語交流員としての意識のあり方について理解できた。
<p>テーマ 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育人材が連携した日本語教室というものが今回よくわかった。 ・すでに活動（支援）している方の話が聞けてよかった。 ・今回学ばせていただいたことを、どの様に生かしたらよいのかが課題です。

アンケート結果から、各テーマで身に付ける資質・能力について、おおむね理解されていることがうかがえた。

5.1.2 研修内容（2年目（令和元年度））

(1) 主催・協力

主催 長野県

協力 長野市（長野会場）、伊那市（伊那会場）

(2) 研修会場及び日時

長野会場 もんぜんぷら座

令和元年 10月5日～12月7日のうち土曜日 5日間 12:30～15:30

伊那会場 伊那市生涯学習センター

令和元年 10月6日～11月24日のうち日曜日 5日間 13:00～16:00

(3) 受講者数

長野会場 29名（うち日本語学習支援未経験者 18名）

伊那会場 19名（うち日本語学習支援未経験者 12名）

(4) 修了者数（日本語交流員養成数）

長野会場 23名（うち日本語学習支援未経験者 14名）

伊那会場 14名（うち日本語学習支援未経験者 11名）

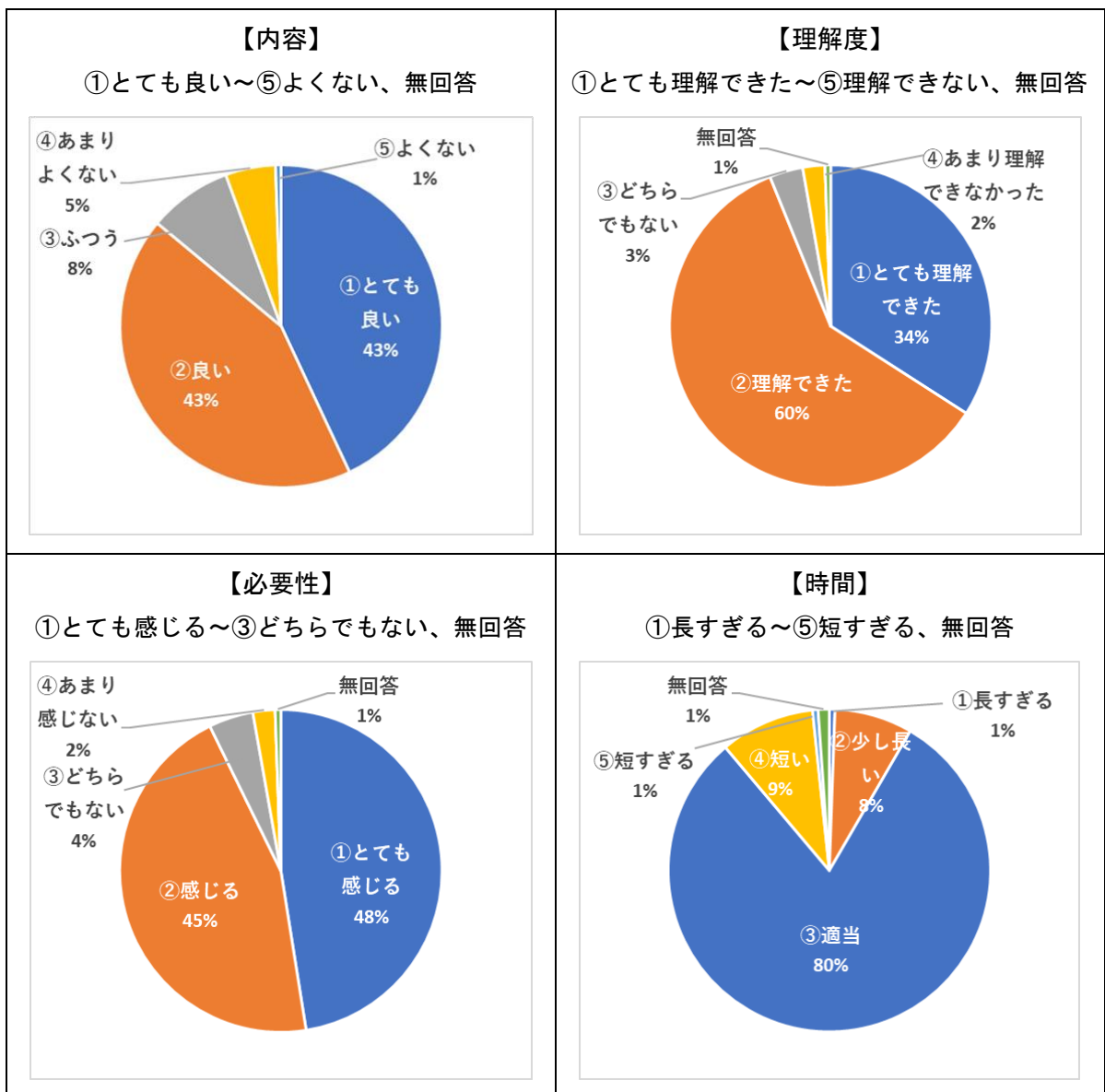
(5) 研修テーマ及び講師

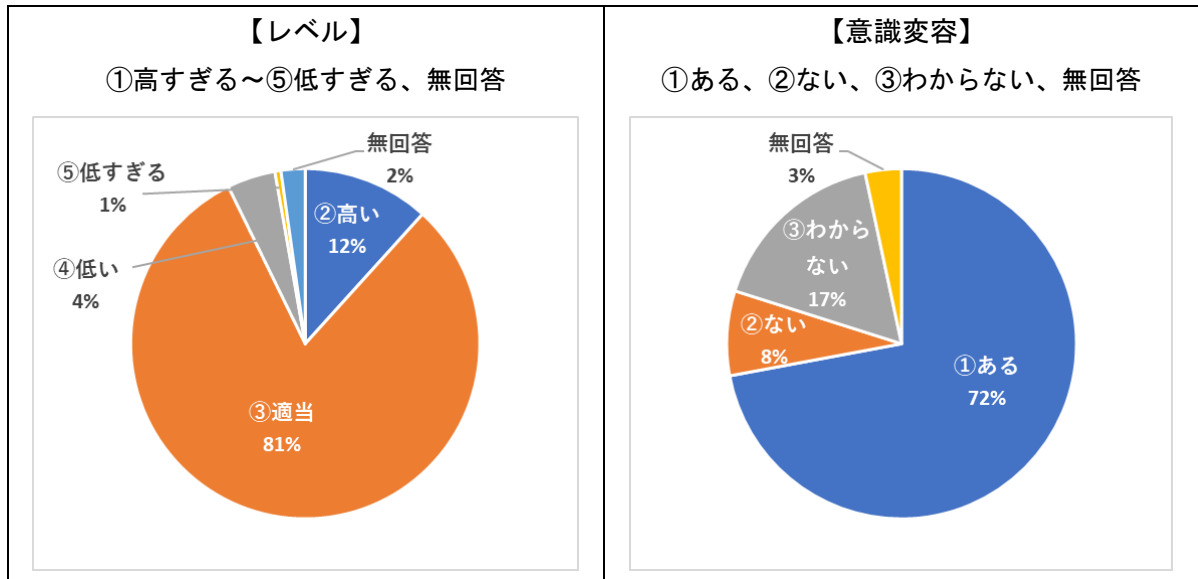
テーマ（実施当時）		実施回及び講師（敬称略）
1	日本語交流員の役割と多文化共生（学習者の背景に対する理解） ～日本語交流員の役割を学ぶとともに多様性を認め合おう～	長野①：公益財団法人長野県国際化協会 相談役 春原 直美 伊那①：武蔵野大学 准教授 神吉 宇一
2	長野県、地域の独自性 ～どんな特徴があり、どんな日本語教室があり、学習者がいるのかを知ろう～	長野②：上田女子短期大学 教授 大橋 敦夫 伊那②：公益財団法人長野県国際化協会 相談役 春原 直美
3	やさしい日本語 ～日本語交流員として身につけておくべき日本語のスキル～	長野③・伊那④：信州大学 非常勤講師 岡宮 美樹

4	多文化コミュニケーション ～コミュニケーションから相手の文化を 尊重しよう～	長野④・伊那③：信州大学 教授 徳井 厚子
5	日本語交流員として ～活動を想定し実践してみよう～	長野⑤：NPO 法人 中信多文化共生ネットワーク 日本語教育アドバイザー 佐藤 佳子 長野⑤・伊那⑤：公益財団法人長野県国際化協会 相談役 春原 直美

(6) 受講者アンケート

各回で実施したアンケートの平均値





(アンケートから抜粋)

テーマ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・外国から来られた方と共に暮らせる社会、安心して暮らせる制度面の充実化など、意識を共有できる方々とお会いできたのがよかった。 ・日本国内の外国人のことがわかって勉強になった。
テーマ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションの時間が多くあったので、経験者の方の話が沢山聞けて良かった。 ・地域別にグループ分けして話す機会があれば、今後の具体的活動の話ができてよいと思った。 ・前回（テーマ 1）は大局的な国策の内容から、今回は県内の状況を豊富な資料で説明いただき参考になりました。
テーマ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語交流員としての役割が明確になった。 ・例題が難しかったけどトライできてよかった。現実はこの場面があるはず。
テーマ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク意見交換できることがよかった。配慮を意識化し、接するときの気持ちの持ち方に通ずる回でした。 ・異文化理解が普段の生活にも活かせる大切なものと学ばせてもらった。
テーマ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・交流支援員の役割や、今後の具体的な活動の場について学ぶことができて良かったです。 ・交流員の具体的な活動の場がイメージできた。 ・このプログラムを第 1 回にしてほしかった。

アンケート結果から、受講者同士が話し合える時間を通して学びを深めていることがわかった。一方で、日本語を直接指導する者ではない日本語交流員という存在に対し、スムーズに理解できなかった受講者もいたことがうかがえた。

5.1.3 研修内容（3年目 令和2年度）

令和元年度までの受講者アンケート結果を踏まえ、研修の初期段階で日本語交流員の役割を正確に捉えてもらうため、テーマ5「日本語交流員として～活動を想定してみよう～」を第1回に実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、テーマ1「日本語交流員の役割と多文化共生（学習者の背景に対する理解）～日本語交流員の役割を学ぶとともに多様性を認め合おう～」をオンライン会議システム（Zoom）による実施とし、自宅で受講できない受講者向けに、別会場（駒ヶ根市役所内会議室）を設けた。

(1) 主催・協力

主催 長野県

協力 駒ヶ根市（駒ヶ根会場）

(2) 研修会場及び日時

駒ヶ根会場 駒ヶ根市市民交流活性化センター アルパ（一部オンライン）

令和2年9月26日～11月14日のうち土曜日5日間 原則13：30～16：30

（一部オンラインの回は必要に応じて、時間を短縮）

(3) 受講者数

駒ヶ根会場 28名（うち日本語学習支援未経験者13名）

(4) 修了者数（日本語交流員養成数）

駒ヶ根会場 24名（うち日本語学習支援未経験者11名）

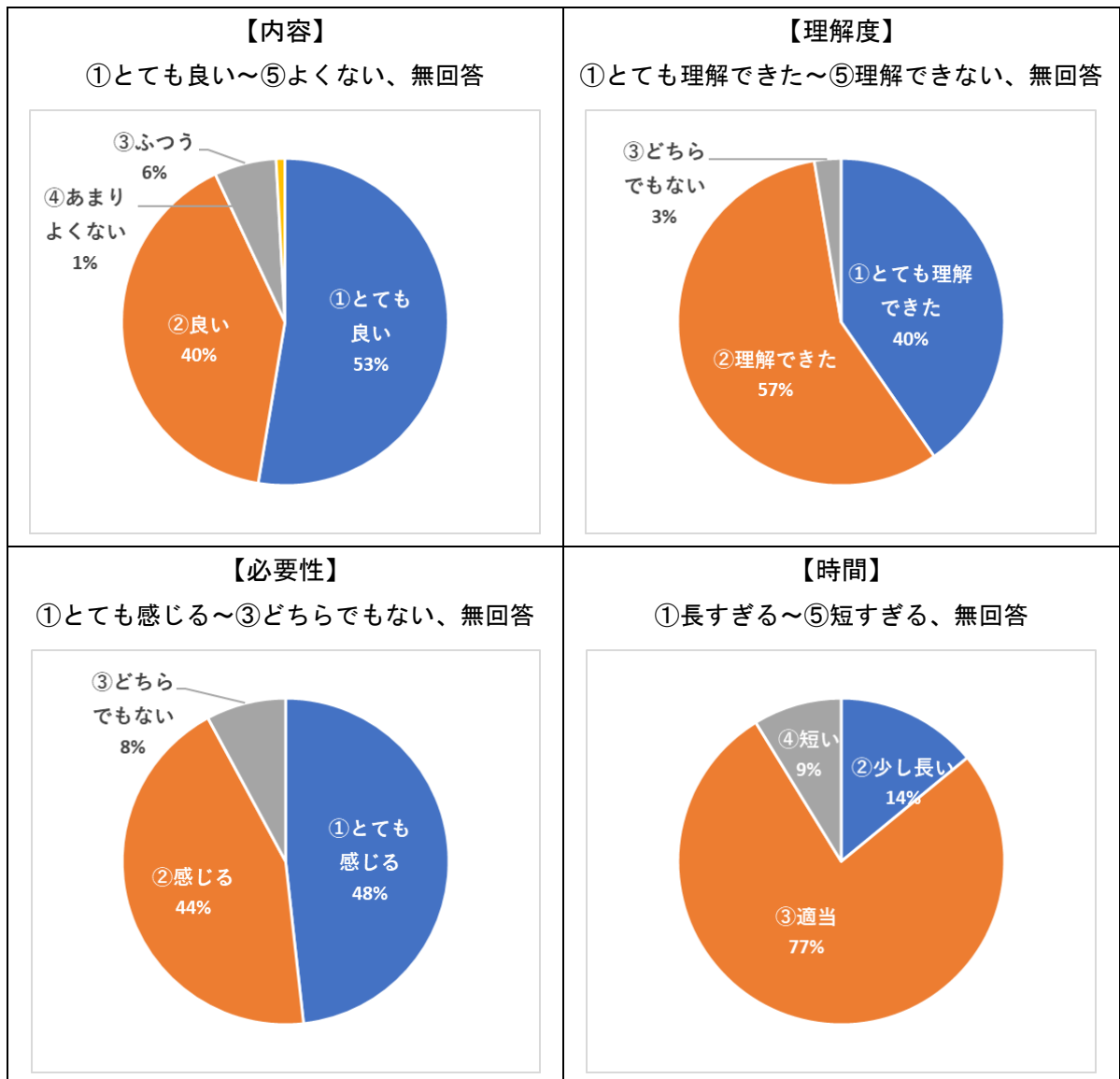
(5) 研修テーマ及び講師

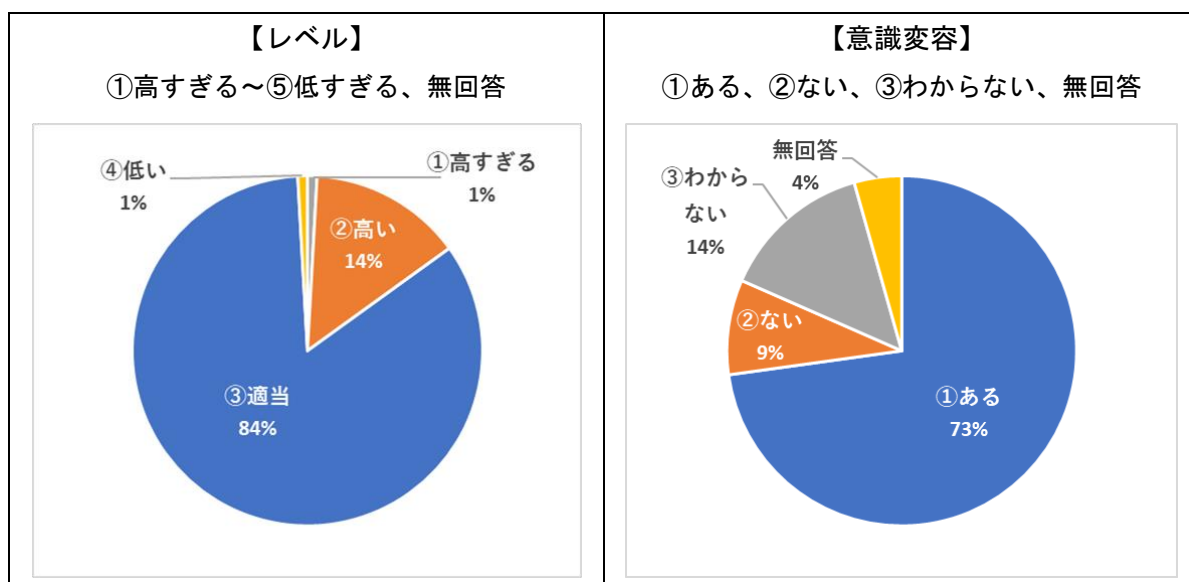
テーマ		実施回及び講師（敬称略）
1	日本語交流員の役割と多文化共生（学習者の背景に対する理解） ～日本語交流員の役割を学ぶとともに多様性を認め合おう～	駒ヶ根②：武蔵野大学 准教授 神吉 宇一
2	長野県、地域の独自性 ～どんな特徴があり、どんな日本語教室があり、学習者がいるのかを知ろう～	駒ヶ根③：上田女子短期大学 教授 大橋 敦夫
3	やさしい日本語 ～日本語交流員として身につけておくべき日本語のスキル～	駒ヶ根④：信州大学 准教授 坂口 和寛

4	多文化コミュニケーション ～コミュニケーションから相手の文化を 尊重しよう～	駒ヶ根⑤：信州大学 非常勤講師 岡宮 美樹
5	日本語交流員として ～活動を想定してみよう～	駒ヶ根①：NPO 法人 中信多文化共生ネットワーク 日本語教育アドバイザー 佐藤 佳子

(6) 受講者アンケート

各回で実施したアンケートの平均値





(アンケートから抜粋)

テーマ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の方がおかれている状況について詳しく知ることができてよかった。 ・どこの地域でも共生するために試行錯誤していることが分かった。
テーマ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域の方と取組や思いを話し合う時間があり、よかったです。 ・他の地域で特徴ある事例あれば知りたいです。
テーマ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教師に求められているスキルと交流員に求められているスキルがわかった。やさしい日本語について学べた。 ・よりわかりやすい文にしたことで表現の仕方の幅が広がった。 ・外国人の立場で考えることが多かった。
テーマ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して外国人の気持ち、地域の方の気持ち、対応などについて考えることができた。 ・外国人と接するときの相手の気持ちを考えてみるワークなど興味深かった。
テーマ 5 ※第 1 回に実施	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語交流員そのものの内容がよく分かった。 ・日本語交流員という役割が具体的にどのようなものかを知ることができ、活動に対して意欲がわいた。

テーマ 5 を第 1 回に実施したことで、日本語交流員について、早い段階で理解してもらえたことがうかがえる。

5.2 日本語交流員スキルアップ研修

(1) 研修実施地域

初期研修修了者が対象となるため、原則として前年度初期研修を実施した地域とした。

令和元年度 県中部 松本会場
県東部 上田会場

令和2年度 県北部 長野会場

(2) 受講対象者

初期研修修了者で、日本語交流員としてより実践的な内容に取り組みたい方

(3) 修了要件

全4回中第2回及び第3回を含む3回以上出席した者を修了者とし、修了証書を授与する。

(4) 受講者数

32名（令和元年度～令和2年度）

(5) 修了者数

29名（令和元年度～令和2年度）

日本語交流員養成スキルアップ研修受講者・修了者数一覧（単位：人）

年度	会場	受講者	修了者
R1	上田	9	9
	松本	14	12
R2	長野	9	8
合計		32	29

5.2.1 研修内容（2年目（令和元年度））

(1) 主催・協力

主催 長野県

協力 上田市（上田会場）、松本市（松本会場）

(2) 研修会場及び日時

上田会場 市民プラザ・ゆう

令和元年11月16日～令和2年2月8日のうち土曜日4日間 15:00～18:00

松本会場 松本市中央公民館

令和元年11月10日～令和2年2月2日のうち日曜日4日間 13:30～16:30

(3) 受講者数

上田会場 9名

松本会場 14名

(4) 修了者数

上田会場 9名

松本会場 12名

(5) 研修テーマ及び講師

テーマ（実施当時）		実施回及び講師（敬称略）
1	日本語交流員の役割と多文化共生～初期研修の振り返りを通して改めて考えてみよう～ 地域のリソースと外国人支援【パート1】～地域のリソースを確認して外国人支援を考えよう～	上田①：公益財団法人長野県国際化協会 相談役 春原 直美 松本①：NPO 法人中信多文化共生ネットワーク 日本語教育アドバイザー 佐藤 佳子
2	コミュニケーション実習～学習支援について、コミュニケーションを通して考えよう～	上田②：信州大学 非常勤講師 岡宮 美樹 松本②：武蔵野大学 准教授 神吉 宇一
グループ実践		
3	実践の振り返り～振り返りを通して実践について改めて考えよう～ 地域のリソースと外国人支援【パート2】～地域のリソースを確認して外国人支援を考えよう～	松本③・上田③：上田女子短期大学 教授 大橋 敦夫
4	日本語交流員として～長野県の多文化共生社会を思い描こう～	松本④：NPO 法人中信多文化共生ネットワーク 日本語教育アドバイザー 佐藤 佳子 上田④：信州大学 非常勤講師 岡宮 美樹

(6) グループ実践で設定された活動（抜粋）

①テーマ：日本語教室での学習支援（メンバー数4名）

目的：日本語教室の日本語交流員の活動を見学したり、また自分も交流員として参加しながら、立場と役割を考える。

方法：日本語教室の見学、参加

交流員が具体的にどのような支援をしているのか（表情、言葉がけなど含め）。

学習者は、その授業中、どのような感じなのかを見学し、考察する。

②テーマ：外国人とのコミュニケーションの取り方（メンバー数3名）

目的：初めて会った外国人の方とコミュニケーションのきっかけを作るためにはどうしたらいいのかを考える。お互いの文化の違いを理解してコミュニケーション能力を身につける。

方法：日本語教室に来ている学習者と対話形式でおこなう

事前に用意した資料やインターネット等を使い衣食住の話題を中心にお互いの国の現状を紹介しあう

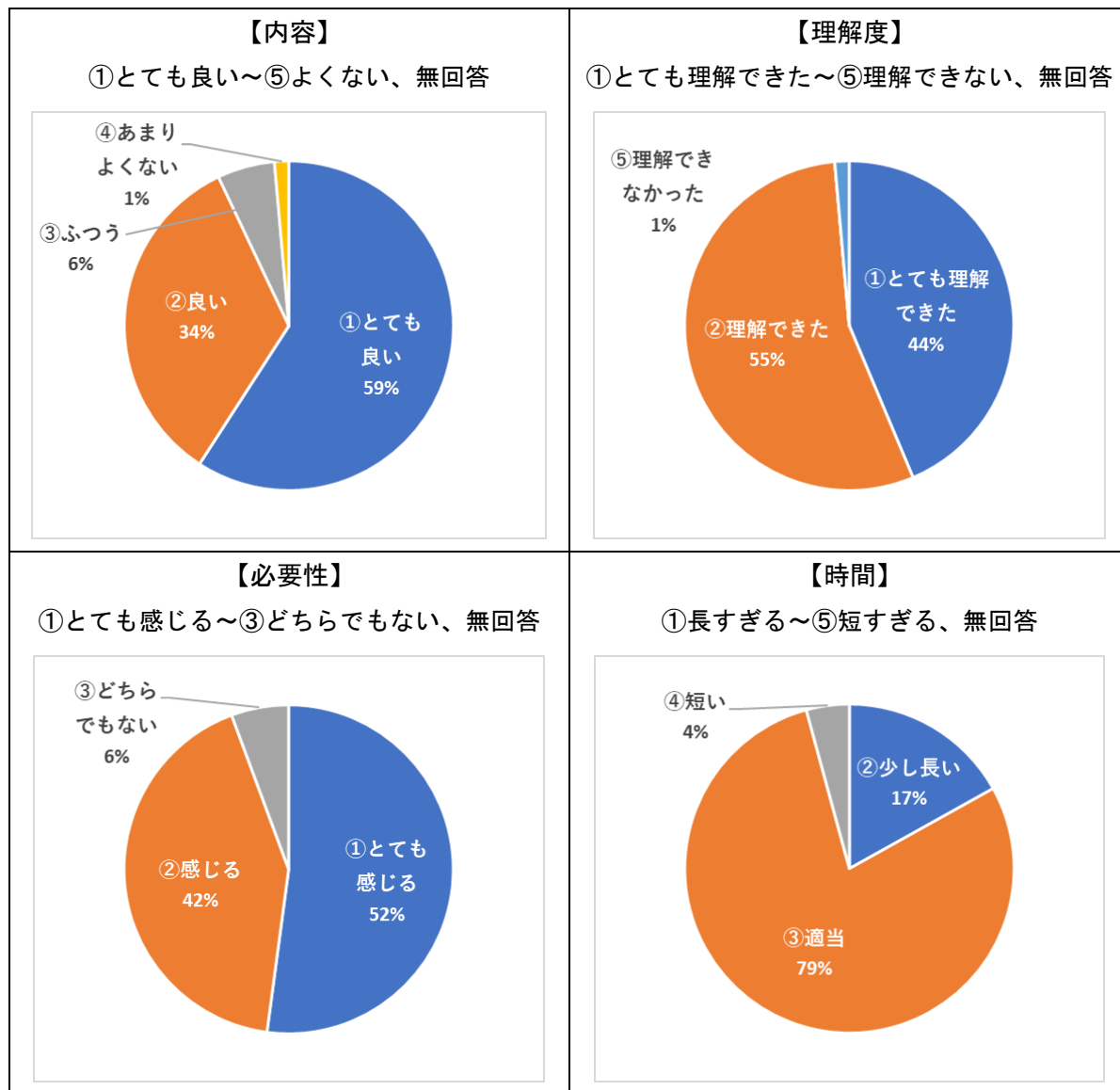
③テーマ：自治体の異文化交流の現状（メンバー数3名）

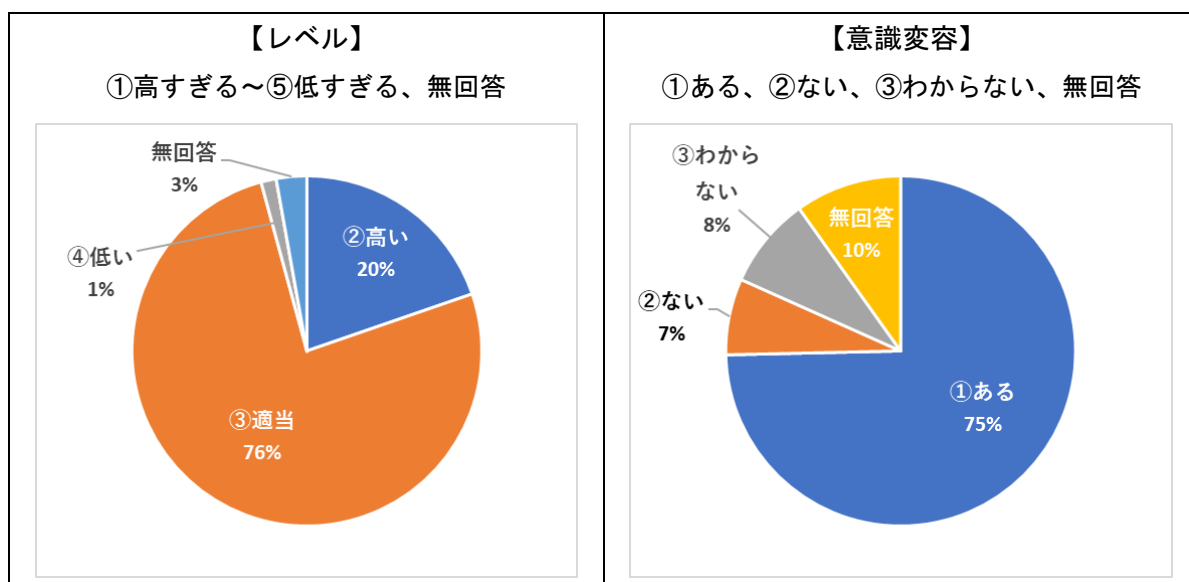
目的：地域で暮らす外国人住民と地域コミュニティの交流事例を調べることにより、交流員の役割について考える。

方 法：小学校で、自治会活動と技能実習生のボランティア活動を見学する。上記自治会を訪問し、関係者に聞き取りをする。

(7) 受講者アンケート

各回で実施したアンケートの平均値





(アンケートから抜粋)

テーマ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語交流員としての立場が以前よりはっきりした。 ・日本語交流員の果たすべき役割、位置づけも見えてきて有意義だった。
テーマ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの必要性について理解が深まった。実践も体験型で有益でした。 ・コミュニケーション能力とは？多様性とは？を改めて考えることができた。
テーマ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動の報告を聞いて、共通の問題点やこれから活動にとりいれていけることを知ることができた。 ・グループ実践が有意義でした。 ・他のグループの発表を聞くことが出来た、より多文化の交流の実践等も判り参考になった。
テーマ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語交流員による発表を中心にすえていて充実していた。 ・自分の言葉で（日本語交流員としての決意を）発表したことは、次の一年につながる。 ・課題設定をして発表するという研修は、講師の話を一方向的に聞くより、自分の考えを振り返ることができて良かったです。

グループ実践そのものが有意義だったこと、またグループ実践の発表や各受講者の発表を聞くことで互いに振り返ることができ学びにつながったと思われる。

5.2.2 研修内容（3年目（令和2年度））

当初、すべて集合形式による研修を予定していたが、研修期間中に新型コロナウイルス感染症の感染拡大期が重なったため、後半はオンライン会議システム（Zoom）により実施した。同様の理由で、グループになっての実践が困難であったため、感染防止に配慮した上での個人又は2名での実践活動となった。

また、令和元年度に初期研修を開催した伊那会場においてもスキルアップ研修を予定していた

が、研修開始時期から感染拡大期が重なったため、全4回を中止とした。

(1) 主催・協力

主催 長野県

協力 長野市（長野会場）

(2) 研修会場及び日時

長野会場 長野市生涯学習センター

令和2年11月21日～令和3年2月6日のうち土曜日4日間 13:30～16:30

(3) 受講者数

長野会場 9名

(4) 修了者数

長野会場 8名

(5) 研修内容

テーマ		講師（敬称略）
1	日本語交流員の役割と多文化共生～初期研修の振り返りを通して改めて考えてみよう～ 地域のリソースと外国人支援【パート1】 ～地域のリソースを確認して外国人支援を考えよう～	長野①：信州大学 非常勤講師 岡宮 美樹
2	コミュニケーション実習～学習支援について、コミュニケーションを通して考えよう～	長野②：信州大学 准教授 坂口 和寛
3	実践の振り返り～振り返りを通して実践について改めて考えよう～ 地域のリソースと外国人支援【パート2】 ～地域のリソースを確認して外国人支援を考えよう～	長野③：上田女子短期大学 教授 大橋 敦夫
4	日本語交流員として～活動を想定し実践してみよう～	長野④：信州大学 非常勤講師 岡宮 美樹

(6) 実践で設定された活動（抜粋）

①テーマ：日本で生活をしていて困っていること（メンバー数2名）

目的：外国人が日本で快適に生活するため

方法：外国人や日本語教室のスタッフの方にインタビュー。困っていることを聞いて、ど

うやってサポートできるか考える。

②テーマ：日本語教室における学習支援と地域や企業連携の可能性について考える（個人）

目的：日本語教室の活動を見学し、指導者や参加者の声から、日本語教室の役割と地域や企業連携の可能性及び日本語交流員としての役割についてまとめる

方法：次の視点で見学を実施する。

- ・ボランティアがどのような活動を行っているか。（教室内、その他地域における活動等）
- ・学習者の状況（地域交流の有無、就労先での支援）
- ・日本語交流員として、どのような活動ができるか。（日本語教室内での活動、地域での活動等）
- ・学習者が求める支援

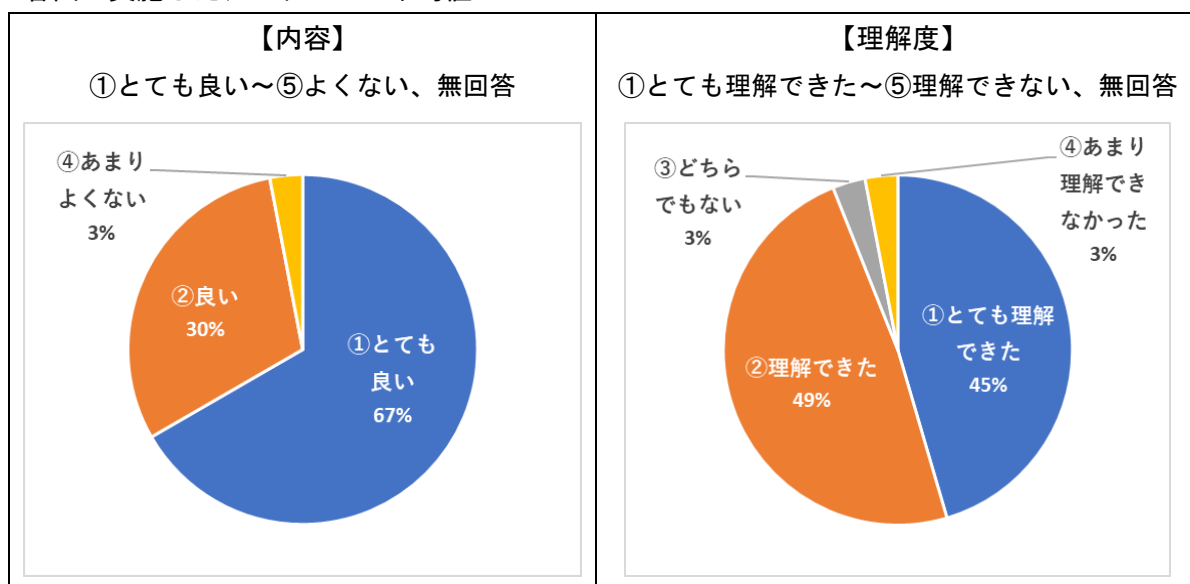
③テーマ：外国人ボランティアサークルの創設とその活動内容について（個人）

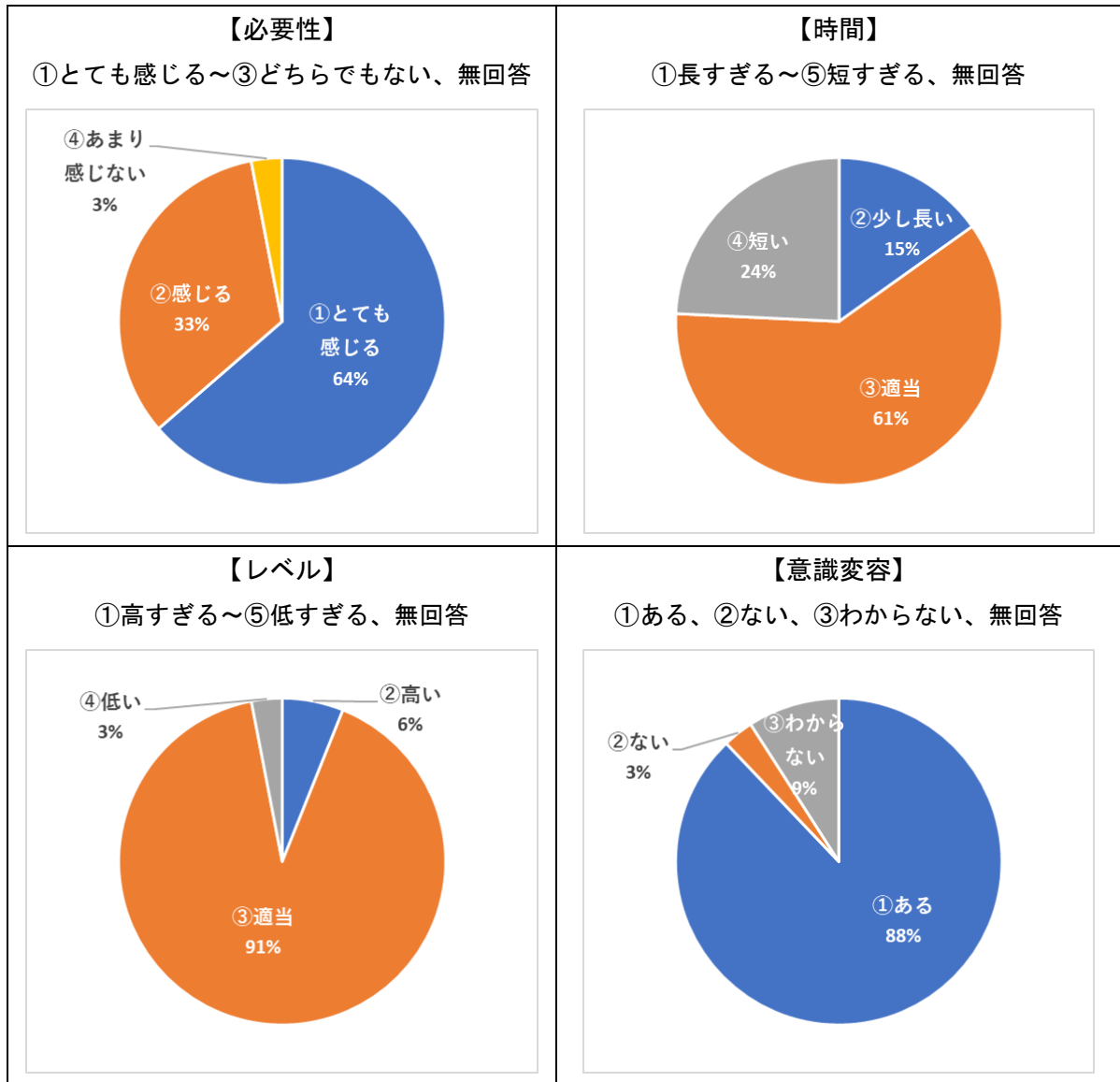
目的：在住外国人にボランティア活動を通じて地域社会の一員であると実感してもらう。また本カリキュラムの目標にある地域住民の積極的な参加を促す。

方法：テーマを最終ゴールとし、今回はまず外国人へボランティアに対するヒアリングを行う。（受け入れ側へは行かない）そのために、いくつかの日本語教室を訪問。

(7) 受講者アンケート

各回で実施したアンケートの平均値





(アンケートから抜粋)

<p>テーマ1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よかった点は、交流員の役割を学ぶ中で「多文化共生とは」を考えることの重要性。 ・日本語教育を通し、地域のコミュニティについて考えさせられました。
<p>テーマ2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語支援をしていくためのコミュニケーションスキルの重要性について理解できた。書くことで話を整理できることも良い内容でした。 ・「コミュニケーション能力」というと、ばくぜん「話す力」と思っていたが4つの要素で構成されている。「書くこと」は振り返ったり確認できるが「話すとき」はそのまま深く考えず話してしまう。やさしい日本語を話すときは意識することが必要。
<p>テーマ3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりをどうしていくのかを考えなければいけないと思いました。 ・交流員としての活動の着目点は様々あり、どう感ずるか、認識するかが重要。
<p>テーマ4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践があったことにより自分が何をしたいのかを具体的に描くことができました。おそらくこの実践がなければ講習終了後も前回と同様そのまま何も変

	<p>わらなかったと思いますが、今回は最後の宣言をすることによりとりあえず行動という思いになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場を見てきたことによって、具体的に現実的な学びを深められた。 ・単に日本語学習だけではなく多文化共生につなげる必要があると感じました。
--	--

令和元年度と同様、実践が今後の活動への意欲になったことがうかがえる。また、テーマ1とテーマ4で「多文化共生」を共通のキーワードとして用いたことで、まとまりのある研修になったと思われる。

6. 事業の普及

6.1 長野県日本語教育大会

日本語交流員の概念や意義について県内外に広く発信するとともに、県内各地で日本語交流員の養成に向けた取組機運を醸成することを目的に、行政や日本語教育機関、日本語教室、企業、一般県民などを対象とした長野県日本語教育大会を開催した。

(1) 開催日時

令和3年2月24日 10:00～12:00

(2) 開催形式

オンライン会議システムによる開催

(3) 参加者数（最大参加アカウント数）

214 アカウント

(4) プログラム内容

時 間	内 容 等
10:00 ～10:10	<p>開会 事業説明「日本語交流員養成事業について」 説明者：長野県多文化共生・パスポート室</p>
10:10 ～10:35	<p>基調講演「地域日本語教室に求められるものと日本語交流員の役割について」 講師：武蔵野大学 准教授 神吉 宇一 氏</p>
10:35 ～11:55	<p>事例発表1「駒ヶ根市の日本語教育の取り組みから」 発表者：駒ヶ根市総務部企画振興課 課長補佐兼地域振興係長 福澤 修 氏 事例発表2「地球人モデル教室への取り組み」 発表者：地球人ネットワーク in こまがね 会長 高森 アナ 氏、事務局 藤井 佳代 氏</p>

10:55 ~11:00	休憩
11:00 ~12:00	<p>パネルディスカッション</p> <p>「地域日本語教室に求められるものと日本語交流員の役割について（仮）」</p> <p>モデレーター：武蔵野大学 准教授 神吉 宇一 氏</p> <p>パネリスト：モデル教室日本語交流員 加納 けい子 氏</p> <p>モデル教室日本語交流員・日本語教師 美甘 直子 氏</p> <p>駒ヶ根市総務部企画振興課</p> <p>課長補佐兼地域振興係長 福澤 修 氏</p> <p>地球人ネットワーク in こまがね</p> <p>会長 高森 アナ 氏、事務局 藤井 佳代 氏</p> <p>R2 地域日本語教室創出支援事業総括コーディネーター</p> <p>佐藤 佳子 氏</p>
12:00	閉会

(5) 参加者アンケート結果

回答数 138名（うち県内参加者50名、県外85名、国外3名）

属性 市町村 28名（20.3%）

国際交流団体等 24名（17.4%）

教育機関 16名（11.6%）

地域日本語教室 25名（18.1%）

日本語教師 14名（10.1%）

日本語交流員 10名（7.2%）ほか

理解度 日本語交流員について理解できた 33名（27.5%）、

だいたい理解できた 84（66.7%）、

あまり理解できなかった 8名（5.8%）

感想 ・日本語交流員（又は日本語教師）として関わりたい

・日本語交流員が活動を継続していけるかが課題だと感じる

・日本語交流員が地域で力を発揮できるよう、地域の自治会レベルでの周知も必要

・日本語交流員の具体的な活動をもっと聞きたい（抜粋）

(6) 大会内容の発信

大会当日に参加できなかった者へも発信するべく、動画投稿サイト（YouTube）にプログラム内容の動画を投稿し、長野県公式ホームページにリンクを張った。

動画投稿サイト（YouTube）投稿チャンネル（「長野県多文化共生推進チャンネル」）

https://www.youtube.com/channel/UCzcL72_bVsdGCLqQ7X1LjFQ

長野県公式ホームページ内リンク掲載ページ

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kokusai/r2jigyou.html>

7. 事業評価

年度ごとに進めてきた取組みに応じて、1年目（平成30年度）及び2年目（令和元年度）は評価検証委員会で年度ごとの評価をし、改善点を見出すことで次年度の取組みへつなげていった。

また、3年目（令和2年度）は、3年間の全体評価も行うべく、実際に地域日本語教室で活動した日本語交流員とその関係者にアンケートを実施するとともに、評価委員会において令和2年度事業への評価、3年間の評価をし、更なる改善点について議論した。

7.1 1年目（平成30年度）における評価

7.1.1 評価検証委員会

(1) 開催日時

平成31年3月6日 13:30～15:30

(2) 議題

- ・日本語学習支援者養成・研修カリキュラム開発事業の評価・検証方法、事業成果の評価方法などの方針策定
- ・事業効果の評価検証、課題整理

(3) 評価結果

項目	コメント	4段階評価※ (評価者5名)
カリキュラム	<目的及び目標> ・日本語交流員の役割、備えるべき知識・技能・態度等、養成する人材像が明確に示されている ・当初、「既存の地域日本語教室の底上げ・平準化」としていた目標設定から、地域の現状や県の指針に合わせて検討・変更されたのは非常に良かった	A × 3 B × 1 C × 1
	<資質・能力> ・多文化共生社会の形成という理念によって、コミュニケーション場面で適切な支援をしつつ交流を促進することができる力を資質・能力として整理でき、適切である ・特に過不足はないかと思う。日本語交流員として身に着ける資質・能力の基礎部分はしっかりと満たされていた	A × 4 B × 1
	<初期研修カリキュラム>	A × 3 B × 2

	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの担当が2人体制であったのは、同じテーマを違う目線で情報・意見の交換ができ有益であった ・日本語交流員としての基本的な態度・姿勢、身につけるべき知識や問題対応能力等について、各回のテーマ・内容に関する具体的な事例等に引き当てて考えられるようなプログラム内容となっている。受講者にとって理解しやすく、重要性が認識できるものだと思う 	
教材	<p><初期研修教材></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムで明示されたことへ向けて、担当執筆者間で共有がなされた ・研修理念を反映した教材が作成・使用されたことは、本事業の目指す日本語交流員の位置づけ・役割を研修参加者が明確に理解する基盤作りの第一歩と言える ・今回、これまでに県の事業にかかわっていなかった地元の専門家も複数関わっていただき、非常に良かった 	<p>A × 4 C × 1</p>
研修	<p><初期研修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的・目標で設定している内容については非常に良いし、ある程度その目指す形の研修が実施できたと思う ・募集定員を大幅上回る応募があったことは関心の高さを示し、広報の成果でもあると評価できる ・各回とも、講義形式、グループワーク、ディスカッション、クイズなど多様な形式が取り入れられ、受講者が多様な学びかたを経験することができる工夫がなされている 	<p>A × 2 B × 3</p>
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・体制・組織は適切に構築され、特に問題は見受けられない ・開催市との連絡・調整はある程度達成していたと思う ・県内外の専門家が委員と講師にあたったことで、俯瞰できよかったのではないと思う 	<p>A × 3 B × 1 C × 1</p>
進捗	<ul style="list-style-type: none"> ・住民同士の相互交流活動を軸として展開する日本語交流員の養成プログラムを十分な計画・準備のもとにスタートさせている ・今年度の事業だけを考えると、当初予定していた取り組みは実現できているため、B～Aに値する 	<p>A × 4 C × 1</p>

※A：大いに認められる、B：認められる、C：やや認められる、D：あまり認められない
(2年目(令和元年度)以降も同様)

(4) 課題と2年目(令和元年度)における対応

- ・この研修を「日本語の教え方を習得できる場」と認識してきた方は当初不満だったかも知れないが、5回の開催を通して受講者の考え方に変化が見られたように思う。今後は受講希望者や既存の日本語教室、市町村に対して事業の目的・目標をしっかりと説明し、共有していくことが必要だと考える

→受講者募集の段階から、日本語交流員の定義について明示することで、受講者と研修内容のマッチングを図った

- ・どのタイミングでどのような資質・能力を期待するのかを言語化しておくといよい

→初期研修、スキルアップ研修それぞれのカリキュラムにおいてウエイトを重くする項目を区別することで、受講初期から養成後まで段階的なカリキュラムとした

7.2 2年目（令和元年度）の評価

7.2.1 評価検証委員会

(1) 開催日時

令和2年3月6日 13:30～15:30

(2) 議題

- ・令和元年度事業効果の評価検証、課題整理

(3) 評価結果

項目	コメント	4段階評価 (評価者4名)
カリ キュ ラム	<p><目的及び目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語交流員の定義が明確にされており目的及び目標も交流員の役割をイメージしながら考えられる具体的なものになっていて良い 	<p>A × 3</p> <p>B × 1</p>
	<p><資質・能力></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資質や能力が細かく分類され項目ごとに整理されていてわかりやすい ・各講座で扱う活動やテーマにそれぞれ紐づいて資質や能力をバランスよく向上できるようになっていて良い ・交流員として基本的に知らなければならないことは網羅されている 	<p>A × 1</p> <p>B × 3</p>
	<p><初期研修カリキュラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状把握から日本語交流員として活動まで取り入れ効果的にデザインされていて良い ・1年目の反省を踏まえ、理念や方向性を明確にしたこと、また講座のいくつかの内容を整理したことが質の向上につながり、よいものとなった 	<p>A × 3</p> <p>B × 1</p>
	<p><スキルアップ研修カリキュラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークや意見交換から学びが多く得られるようにデザインされており、個人の意見や気づきがより重要になっていて良い ・経験・知識をある程度持つ受講者の意識を高める内容・方法が組まれている 	<p>A × 2</p> <p>B × 2</p>
教材	<p><初期研修教材></p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化で生活することの全体を視野に入れた優れた教材である ・日本語支援の理念が明確である 	<p>A × 1</p> <p>B × 3</p>

	<スキルアップ研修教材> ・初期研修教材に比べて、運用の自由度が高い教材の構成になっておりよい ・長野の状況十分に理解した上での日本語教育の実施を考えるために必要な内容である	A × 1 B × 3
研修	<初期研修> ・会場の立地や施設・設備など問題ない ・受講者の意識変容が明らかで、目的や意義の理解に繋がっている	B × 4
	<スキルアップ研修> ・集合研修よりも実習を基本にしたことで、修了後に地域での即戦力として活躍できるのではないかと ・受講者が目的を理解し、初期とは異なる目標立てが意識されている ・国や自治体など、社会全体への視点を得られる内容となっている	A × 1 B × 3
実施体制	・県の特性に合わせ、地域ごとの活動展開と全体の共有が適正になされている	A × 1 B × 2 C × 1
進捗	・日本語交流員の役割を明確にしたこと、モデル教室を試行したことなどで、長野県としての体制整備の方向性が見えた ・事業の目的や趣旨から逸れることなく最後まで実施されている	A × 2 B × 2

(4) 改善点に対するコメントと3年目（令和2年度）における対応

- ・交流員としての役割が視覚でわかるように、活躍している方々の姿を動画で見たり具体的な活動例にもっとたくさん触れられたりすると、役割のイメージがしやすくなる。初期研修は役割のイメージ化ができる教材や活動が重要

→令和2年度の研修では、テーマ5を第1回に実施し、その中で実際に活動している日本語交流員の様子を録画したものを提示

- ・講座の様子を録画し、欠席者や受講者のフォローアップとして活用することを検討するとよい

→集合形式の講座全体を録画することが技術的に難しかったため、令和2年度は欠席者へ個別に連絡をする等で対応

7.3 3年目（令和2年度）及び3年間（平成30年度～令和2年度）の評価

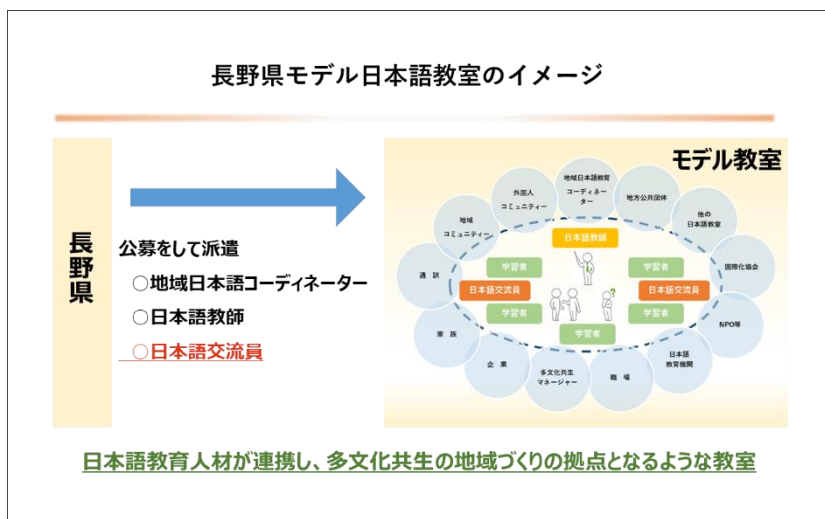
7.3.1 モデル日本語教室アンケート

本事業において養成され、実際に地域で活動した日本語交流員とその関係者（連携した日本語教師、地域日本語教育コーディネーター及び外国人学習者）を対象としたアンケートを実施し、本事業で開発・実施しているカリキュラム・教材・研修の効果検証の一助とした。

(1) アンケート対象者

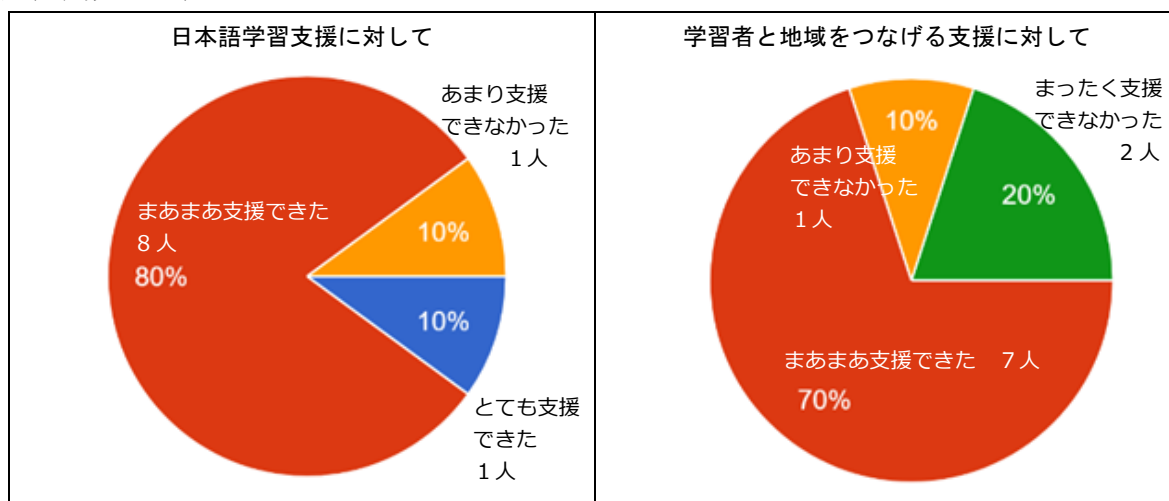
- ・モデル日本語教室※で活動している日本語交流員
- ・モデル日本語教室で日本語交流員と連携して活動している地域日本語教育コーディネーター及び日本語教師
- ・モデル日本語教室へ通っている外国人学習者

※モデル日本語教室…長野県が目指す地域日本語教室（3.1.1 参照）をモデル的に実施している教室



(2) 日本語交流員向けアンケート結果

回答者数 15名



日本語学習支援ができたと感じる点（抜粋）

- ・学習者の実情、日本語能力レベルに合った日本語の内容で会話が成り立った時に支援ができたとき、例えばお互いの自己紹介等で出身地、年齢、出身地の様子（どんなところか）家族構成、趣味、好きな食べ物、等々の話ができたとお互いに親近感が湧いてくるような感じの時に支援ができたと感じました。
- ・受講者さんたちが日本語を話すことそのものが支援になったと思います。
- ・日本語を聞いて文字にするときに、聞き取れなかった日本語をもう一度伝えたり、授業のスピードに乗れなかったときに先生にその旨を伝え、学習者さんが理解できるよう努めました。

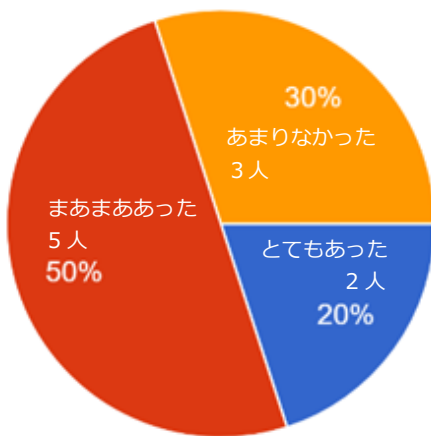
学習者と地域をつなげられていると感じた点

- ・学習者さんの好きなこと（写真）を伝えたところ、市で外国人からの写真を募集している事項につながりました。
- ・学習者さんの身近に起きているゴミの問題は、直接本人にも影響があるため、市のゴミの出し方の絵を見ながら、一緒に考えました。
- ・市の商店街を巡って地元の方と会話ができたと感じた。

外国人学習者と地域をつなぐことができなかった理由

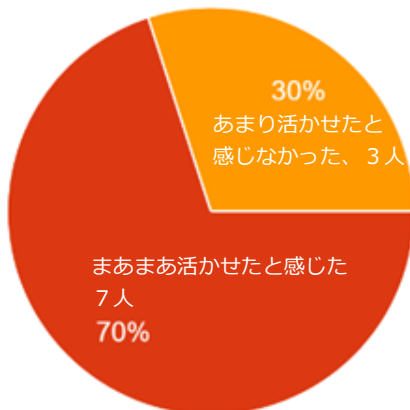
- ・市外在住の私にとってはあまり市とつなぐ活動はできなかった。

自身の意識の変化

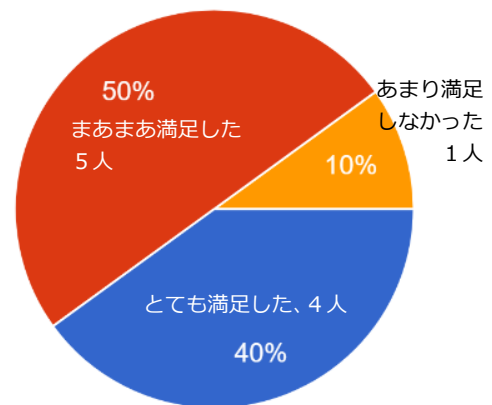


- ・実際に外国人に触れてみて、実感があった。また、さらに交流したいという意識が高まった。
- ・学習者が楽しみで集まってくる日本語教室にすることの素晴らしさ、難しさを思いました。
- ・交流員として何が出来るかを考えるようになった。
- ・一番意識したのは、やさしい日本語でゆっくり話す事です。私はもともと声が小さい方なので、はっきり話すことも心がけました。
- ・言葉を教える、と意識しがちですが、あくまで交流員は地域との繋げ役、とあたためて思いました。

研修内容がモデル教室で活かされたか



満足度



感想

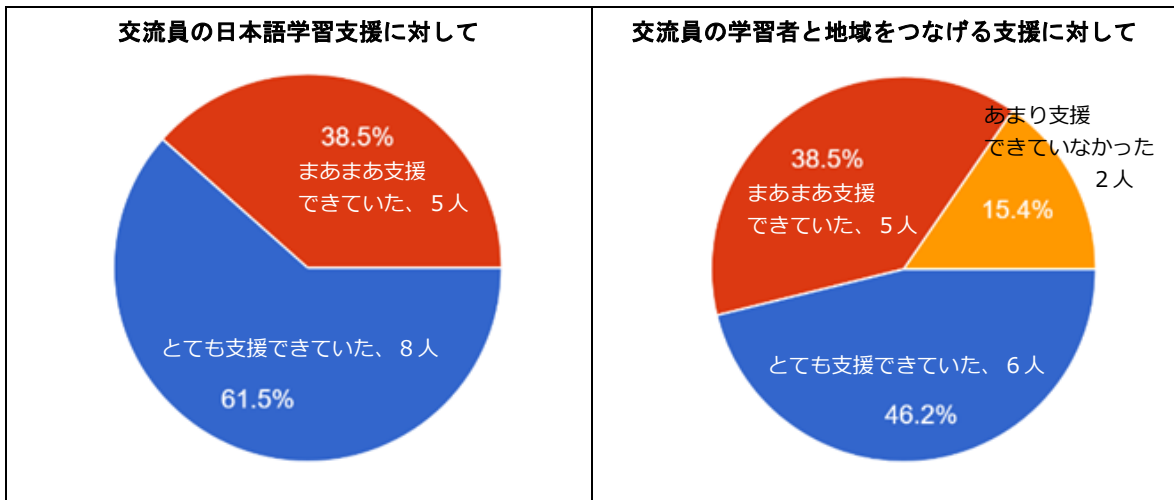
- ・今回は、市役所の方がゴミの収集や災害について話してくださいました。学習者の反応としては、これらの内容が面白く役に立ったようでした。地域との繋がり、というならば、今回のように授業の中に行政からのアナウンスを取り入れて、それについて交流員が補助をする形にしても、いいのではないかと思います。身近な、具体的な内容のほうが地域を意識することにも繋がると思いました。
- ・日本語交流員は地域の日本語教室のボランティアとは違い、日本語を教えるわけではなく、受講者さんが日本語を話す雰囲気作りが大切だと思います。また、今回はオンラインで参加者全員が自宅から参加できるのはとても便利でしたが、反面、対面方式で受講者さんの隣に座ってその人に合わせるように対応するのも醍醐味だったと思います。
- ・先生と学習者の間に立つ交流員という立場を上手く使ってもっと世間に周知されればいいのかなと思います。

感想から、日本語学習支援だけでなく地域とのつなぎ役であること、「やさしい日本語」の活用等、実際の活動の中で研修内容を活かしていることがわかる。

一方で、地域とつなげるためにも日本語交流員自身が地域について把握していることの必要性が浮き上がった。

(3) 地域日本語教育コーディネーター及び日本語教師向けアンケート結果

回答者数 13名



日本語学習支援ができていたと感じる点

- ・学習者が授業内容を理解しづらかった場合、アドバイスや疑問点など学習者と共に考え解決してくれた。教師としては1人では手が回らないところを補助して貰い心強く授業に臨むことができた。
- ・コロナ禍ということもあり、日本人との関わりがより一層希薄になっている中、易しい日本語を理解している日本人と実際に話す機会が持てたことは、彼らの日本語の向上等に大きく影響したかと思います。日本語交流員がいなければここまでたくさんの会話は生まれなかったかと思うので、重要な役割を担っていただけていたと思います。
- ・学習者さん達の自発的な発話や、笑顔が増えたとき。
- ・レベルに合わせて個別にサポートをしているとき
- ・学習者のニーズに合わせて支援してくれていた。自主的に教材を共有してくれた交流員もいた。
学習者との会話の中で、積極的に学習した文型を使い、定着させようとする姿勢が感じられたとき。
- ・会話の時間の後、受講者さんが楽しそうな様子を見て、成果は出たのではないかと思います。話した内容も問うべきなのかもしれませんが、それ以上に受講者さんと交流員さんが「普通の」「やさしい」日本語で会話をするこの方に重きをおいた方がいいのではないかと思います。

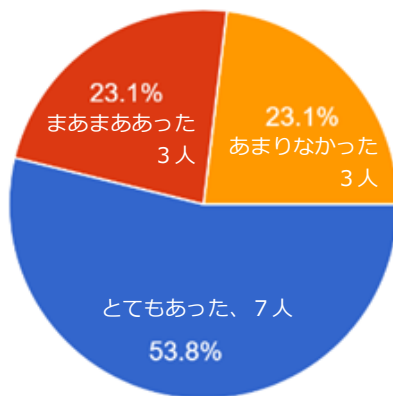
学習者と地域をつなげられていると感じた点

- ・市の防災危機管理の方やごみ減量アドバイザーの方の話を聞いたり、ゲームなどができた事は素晴らしいかった。
- ・支援の中で、外国人学習者が地域の日本語教室に通いたいので紹介してほしいという話がありました。モデル教室から地域の教室のつながりができてよかったと思います。
- ・今回、教室活動に地域をつなぐ内容が取り入れられた（防災、町歩き）。学習者の住んでいる地域について、尋ねてくれた。
- ・地域特有の話題を提供したりされたりしていることが感じられたとき
- ・仕事以外では日本人と接点がない学習者が地域の方と接することができた
- ・日本語の勉強以外のことで親しく受講者の方たちと会話していたり、日本語教室が終わっても交流が続いていることから

外国人学習者と地域をつなぐことができなかった理由

- ・交流員さんが地元の方ではなかったため、地域とつなぐという点では難しかったと思います。やはり、地域とつなぐためには、交流員さん本人がしっかり地域とつながっている必要があると思います。交流員さんが当該地域の方であり、すでにいろいろな方とのネットワークがあることが望ましいです。ただ、必ずしも当該地域に関わりない場合もあるので、その場合は、その地域の核となる団体の活動にしっかり入ったり、団体の方と交流を取る姿勢が必要だと思います。
- ・交流員さんは外国人学習者と日本人をつなぐだけの存在ではないので、交流員さん同士もつながりを大切にしてほしいと思いました。

自身の意識の変化



・学習者と支援者の意思の疎通も元は遠慮がちであったがスピーチを目標に作文を書いたりする頃には打ち解けてだいぶ親しくなってきた。

・特に地域に暮らす実習生の実情や、そのほか地域・県の日本語教育に関わることを活動の中で学ぶことができ、視野が広がったように思います。

・複数の場所から交流員が集まることにはじめ、心配があった。しかし、教室活動をやってみると、交流員の多様性のおかげで、より豊かな対話や活動が展開できた。

・地域の日本語教室は学習者のレベル差がとても大きく、またそれを分けるだけの余裕もあまりないのが、地域の教室の現状なので、それをカバーするのが交流員さんを始め、ボランティアさんの力だとわかりました。さらに、地域の日本語教室には、日本語学習をするという目的だけでなく、居場所、つながり、情報収集、友だちができる場など、いろいろな側面があります。そのために必要なものが日本語です。

・いろいろな学習者の方に合わせた教え方をもっと考えていかなければならないと思ったことと、日本語を教えることを通して地域交流にかかわる活動に今後もかかわっていきたいと思いました。

日本語交流員が地域日本語教室にいる場合といない場合の違い

・交流員がいる日本語教室は学習者が授業内容が理解しやすい。また、国際交流の意味でも学習者の発話の機会も多くとても良いと思う。

・会話の充実に必要な違いが出ると思います。日本語教師から一斉に学ぶだけではなく、それを実践し、さらに話題を広げることができるというのは教室活動の幅を大きく広げますし、学習者の満足度を高めることにもつながるのではないかと思います。

・教師と学習者一人一人の距離が少し遠く感じました。理解度などが感じ取りづらくなりました。

・教師一人だと学習者の方一人一人に対応するのは難しいが、交流員の方がいると対応していただけるので、学習者の方も満足いく授業になるのではないかと思います。

感想

・毎回、アンケートや授業後のふりかえりで、交流員の方々から意見を聞く機会が取れたことはよかった。
・交流員の方が熱心かつ謙虚に、でも楽しそうにいつもいて下さってありがたかったです。私も楽しかったです。

・多くの受講者さんたちが日常生活において日本語を使う機会が少ない現状において、日本語交流員が参加するモデル教室は、学んだ日本語を実際に使うことができるいい機会だと思います。また交流員にとっても、どんな日本語なら受講者さんにわかってもらえるか考えるいい機会になったのではないのでしょうか。日本語教師としてもいろいろなことを考えることができる有意義な機会でした。ありがとうございました。

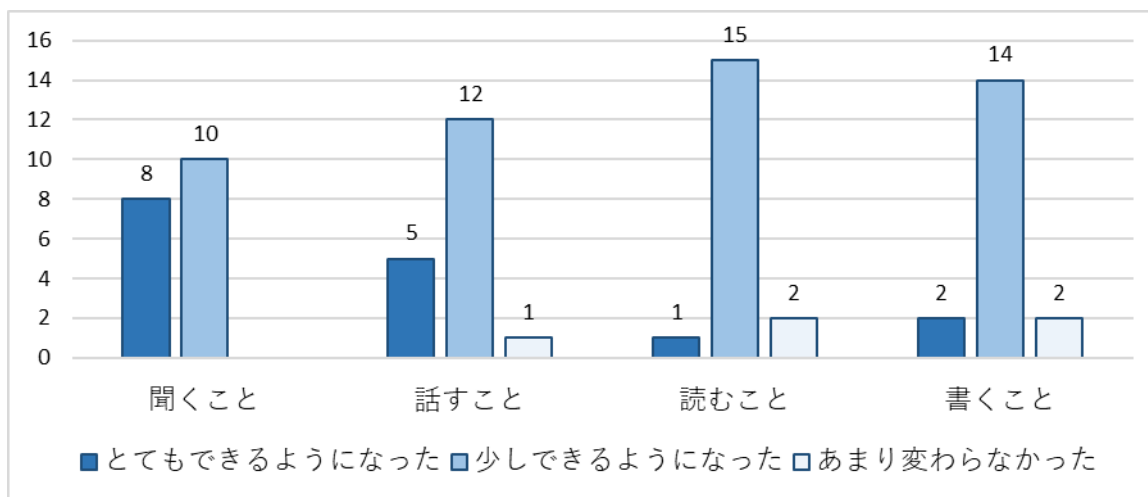
日本語教師は日本語交流員の養成研修を受講してはいないため、モデル日本語教室において初めて日本語交流員の役割や定義を知った場合も多かったと思われるが、日本語交流員と共に活動する

ことで、長野県が目指す日本語教育人材が連携した教室の姿や日本語交流員の意義について理解してもらえたことがうかがえる。また、日本語交流員からのアンケートと同様、地域とつなげるためには日本語交流員自身が地域とつながっている必要があることが明確となった。

(4) 外国人学習者向け回答結果

回答者数 18名

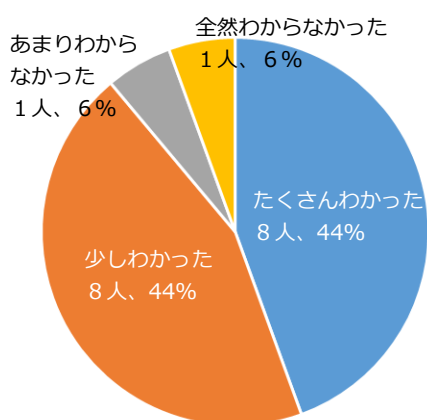
モデル教室に参加してどのくらい日本語ができるようになったか



日本人といっしょに勉強しての感想

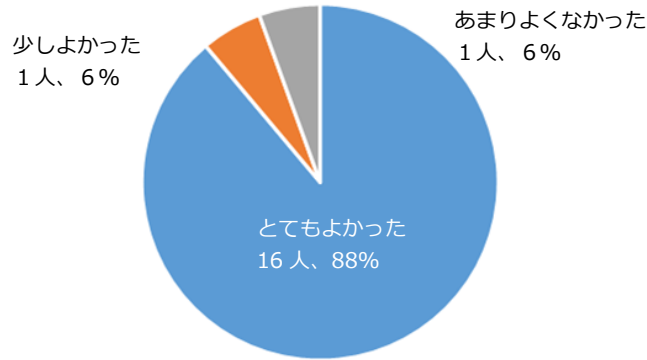
- ・わからない時におしえてもらえてよかった (13)
- ・話す練習がたくさんできてよかった (14)
- ・楽しく勉強できた (15)
- ・いろいろな人と話ができた
- ・情報を得ることができた

モデル教室の設置されている地域についての理解度とわかったこと



- ・お菓子や料理等の店のこと (7)
- ・地域の観光地 (5)
- ・地域のお祭り (2)
- ・社会の活動、文化、人間
- ・災害防止の対策と避難所
- ・店の歴史、地域の人々の優しさ
- ・イベント、地域の会社・団体
- ・市役所の場所
- ・バスの乗り方

満足度



よかった点

- ・日本語を勉強するため日本語を話す機会があり、ボランティア様の親切さ、暖かい心を感じてる
- ・会社が日曜日に休みですから、習学者がたくさん会えることができます。
- ・色々な友達ができました
- ・たくさんのいい先生と出会えてよかった。
- ・色々な人と話しが出来る。
- ・日本語がだんだん上手になれます
- ・この教室のメンバーとして歓迎されていると感じた。熱心でやさしい先生方や世界中から来ているメンバーと会えて楽しかった。楽しい方法で会話が練習できた。
- ・日本語の練習ができるし、日本語のわからない文章を聞くことができる。
- ・よく先生と話ができた
- ・日本語を勉強できて、みんな元気で会えてよかった
- ・難しい言葉や早くしゃべるとわからない（病院とか）が、教室ではゆっくり話してくれるのでよい
- ・おもしろかったです。とても大好き。先生たちはとてもおもしろいです。
- ・友達と先生に会える。とてもうれしかった。
- ・みんながいっぱい話しました、いろいろなことをおしえました、日本語で話せます
- ・会話をすることがどんどんできました。気分もなおりました。ストレスもなくなりました。

学習者のアンケートからは、話す・聞く力についての評価が高かった。日本語交流員がいることで発話が促されることが効果的だったと考えられる。また、そういった活動を通じて日本人と交流ができる場所としても「よかった」「うれしかった」という感想が見られた。

7.3.2 評価委員会

(1) 開催日時

令和3年3月5日 14:00～15:30（オンライン会議システムによる実施）

(2) 議題

- ・令和2年度事業の評価検証、課題整理

- ・本事業全体に対する評価

(3) 令和2年度実施事業への評価結果

項目	コメント	4段階評価 (評価者3名)
研修	<初期研修> ・研修の項目の順序、レイアウトを工夫する等の改善点が見られた ・また感染症対策も取りながら適切に研修を継続実施している ・グループワーク等により、地域内の人のつながりを生み出す機会になっている。	A × 2 B × 1
	<スキルアップ研修> ・非常に内容の濃い研修になっている	A × 1 B × 2
普及	<日本語教育大会> ・まだ県内でほとんど知られていない「交流員」の存在と役割を紹介できる良い機会だった ・実施したことに大変意義がある ・オンライン開催としたことで、対面よりも多くの方（特に県外への方々）への普及が想定より大きな効果をあげられたと思う	A × 1 B × 2
実施体制	・各地域にコーディネーターが配置され、地域の状況に応じた体制が構築できる点が非常に良い	A × 2 B × 1

(4) 3年間（平成30年度～令和2年度）の事業全体への評価結果

事業の目的（1.3）が程度達成できているか、以下①～③についての評価を行った。

項目	コメント	4段階評価 (評価者3名)
①人材の掘り起こし：新たに多文化共生や日本語学習支援に関心を寄せた人材が十分いるか		
	・研修会参加者における未経験者の割合が非常に高かったことは大きな意義があると思う ・受講者のうち「経験者」とされる者に対して、県が目指す総合的な体制づくりについて新たに関心を寄せ理解してもらう機会となったと考える ・どのくらいの人が継続的に関心を寄せているかということを指標にしていくとよいかもしいない	A × 1 B × 2
②人材の養成：資質・能力に適したカリキュラム・教材・研修内容となっているか。また、養成された日本語交流員が資質・能力に即した活動をできているか		
	・カリキュラム・教材・研修内容については、資質・能力の養成に適した内容になっており、レイアウト等にも改善がみられる。今後、継続にあたっては適宜事例紹介の動画や地域の状況を反映した内容を盛り込みながら運用され	A × 2 B × 1

	<p>るとよい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ改善の余地はあると思うが、それらを検討する「元（素材）」としては、十分なものができたと思う 	
<p>③日本語交流員の普及：日本語教育大会を通じて、県内外に広く発信できているか。また、参加者が日本語交流員への関心を持ったか</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の参加者の人数・割合が少なかったことは残念だが、県外に対して広く発信できたことと交流員について理解できたとの回答が多かったことは非常に良かった。また、来年度以降、日本語交流員研修を受講したいとの回答もあり、今後につながっている ・第1回の開催として、今までの取り組みの成果を伝えることができ、また参加者も多かったことで、成功したと言える。他地域の事例等も参考にしながらさらなる発展的取り組みを期待する ・内容をコンパクトにまとめた動画を作成するなど、当日参加できなかった層に対する訴求も検討するとよい ・新しく取り組んでいることですので、一般県民への周知には時間がかかるものと思う。引き続き、さまざまな方法・媒体を通じて、周知に努めていただけたらと思う 	<p>A × 1 B × 2</p>
<p>全体コメント</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の取り組みを振り返ると、年々、実施結果を踏まえてさらに事業の目的と方向性が明確になり、取組内容もより良いものに改善されていると感じる。今後は事業が広く県民に知られるよう周知を図ること、またより多くの市町村に取組みが広がるよう働きかけを行うことが重要だと思うので、コーディネーターとの協力体制のもとともに推進をお願いしたいと思う ・よい取り組みができていると考える。事例の積み重ねと共有、空白地域の解消等種々課題の解決を図って欲しい ・途中、コロナの影響で大きな予定変更を強いられることとなったが、それでも目標に向けて着実に取組みを進められたことで、具体的な成果と課題が見つかり、次年度以降取組むべきことも明確になったと思う 	

(5) 改善点に対するコメント

- ・コロナの影響で開催地が1か所となったのが非常に残念であった。今後はオンラインやオンデマンドでの受講環境が整うとより良い
- ・各交流員が地域で実践した活動も興味深いので、交流員の取り組みとして可能な範囲で公開できるとよい
- ・初期研修の受講者数に比べてスキルアップ研修の受講者が少ない。この層の受講者をどのように増やしていくかが課題
- ・今後、人材のネットワーク化や県が取り組む体制づくりの周知が進み、人材の確保や地域における多文化共生意識の醸成につながることを期待する

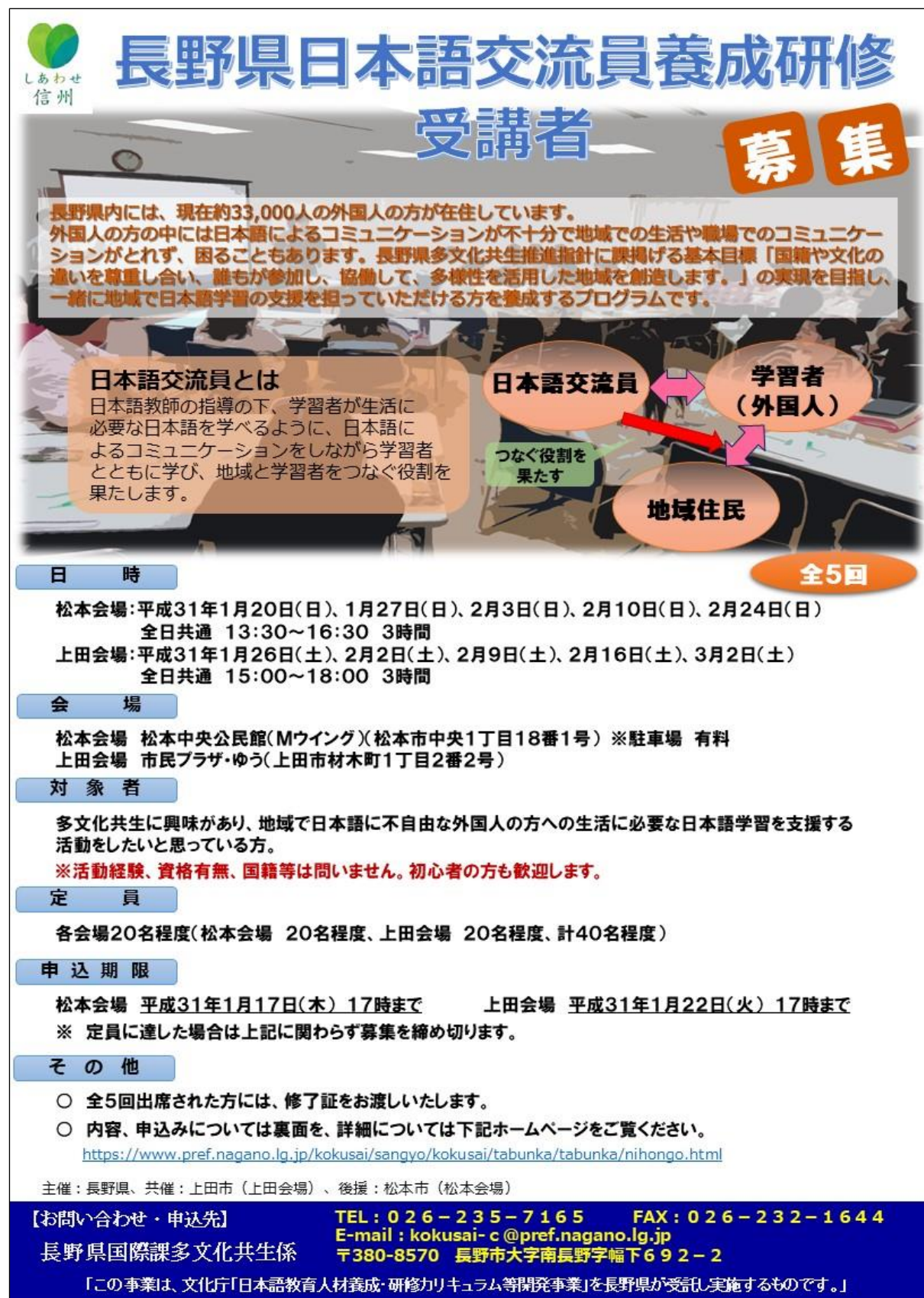
8. 今後の展望

本事業の目的は、日本語教室を多文化共生の拠点とした地域づくりの推進を図るため、多文化共生や日本語学習支援に関心のある人材を掘り起こすこと、日本語交流員に望まれる資質・能力を身に付けた人材を養成すること、県内外に対する日本語交流員の概念の普及を図り機運を醸成することであった。3年間の委託事業期間を経て、養成のためのカリキュラム・教材の作成を終え、長野県内において117名の日本語交流員を養成することができた。また、3年目には日本語交流員について取り上げた「長野県日本語教育大会」を開催し、県内外、国内外から多くの方に参加いただいたことは、一定の成果であったと考える。

しかしながら、研修実施と評価を繰り返す中で、改善点も浮かび上がってきた。今後は、オンライン化の検討やより広く日本語交流員の存在を周知すること、さらには養成された日本語交流員の活動場所について検討を重ねていくことで、より一層の養成・普及を図り、日本語教室を多文化共生の拠点とした地域づくりに資するよう取組みを進めていきたい。

最後に、各種委員・研修講師の皆様、研修や長野県日本語教育大会の実施、アンケート調査に協力いただいた皆様、そして日本語交流員研修を受講いただいた皆様をはじめとする本事業に関わってくださったすべての皆様に厚く感謝を申し上げます。

日本語交流員養成研修チラシ



長野県日本語交流員養成研修 受講者 募集

長野県内には、現在約33,000人の外国人の方が在住しています。外国人の方の中には日本語によるコミュニケーションが不十分で地域での生活や職場でのコミュニケーションがとれず、困ることもあります。長野県多文化共生推進指針に課掲げる基本目標「国籍や文化の違いを尊重し合い、誰もが参加し、協働して、多様性を活用した地域を創造します。」の実現を目指し、一緒に地域で日本語学習の支援を担っていただける方を養成するプログラムです。

日本語交流員とは
日本語教師の指導の下、学習者が生活に必要な日本語を学べるように、日本語によるコミュニケーションをしながら学習者とともに学び、地域と学習者をつなぐ役割を果たします。

日本語交流員 ↔ **学習者 (外国人)**
↕ **地域住民**
つなぐ役割を果たす

全5回

日 時
松本会場：平成31年1月20日(日)、1月27日(日)、2月3日(日)、2月10日(日)、2月24日(日)
全日共通 13:30~16:30 3時間
上田会場：平成31年1月26日(土)、2月2日(土)、2月9日(土)、2月16日(土)、3月2日(土)
全日共通 15:00~18:00 3時間

会 場
松本会場 松本中央公民館(Mウイング)(松本市中央1丁目18番1号) ※駐車場 有料
上田会場 市民プラザ・ゆう(上田市材木町1丁目2番2号)

対 象 者
多文化共生に興味があり、地域で日本語に不自由な外国人の方への生活に必要な日本語学習を支援する活動をしたいと思っている方。
※活動経験、資格有無、国籍等は問いません。初心者の方も歓迎します。

定 員
各会場20名程度(松本会場 20名程度、上田会場 20名程度、計40名程度)

申 込 期 限
松本会場 平成31年1月17日(木) 17時まで 上田会場 平成31年1月22日(火) 17時まで
※ 定員に達した場合は上記に関わらず募集を締め切ります。

そ の 他
○ 全5回出席された方には、修了証をお渡しいたします。
○ 内容、申込みについては裏面を、詳細については下記ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kokusai/sangyo/kokusai/tabunka/tabunka/nihongo.html>

主催：長野県、共催：上田市(上田会場)、後援：松本市(松本会場)

【お問い合わせ・申込先】
長野県国際課多文化共生係
TEL：026-235-7165 FAX：026-232-1644
E-mail：kokusai-c@pref.nagano.lg.jp
〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2

「この事業は、文化庁「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」を長野県が受託し実施するものです。」

第1回 【テーマ】多文化共生(学習者の背景に対する理解)
 【内 容】外国人をめぐる国内外の動き、県内・地域の状況、多文化共生とは、「生活者としての外国人」に対する日本語 教育の目的・目標等

松本会場
 講 師:武蔵野大学大学院 言語文化研究科
 准教授 神吉 宇一 氏
 日 時:平成31年1月20日(日)13:30~16:30

上田会場
 講 師:佐久市市民活動サポートセンター
 事務局長 春原 直美 氏
 日 時:平成31年1月26日(土)15:00~18:00

第2回 【テーマ】日本語学習に対する長野県、地域の独自性
 【内 容】県内・地域の外国人の特性、歴史的背景、地域の支援の状況、地域日本語教育の実施体制等

松本会場
 講 師:佐久市市民活動サポートセンター
 事務局長 春原 直美 氏
 日 時:平成31年1月27日(日)13:30~16:30

上田会場
 講 師:上田女子短期大学 総合文化学科
 学科長 大橋 敦夫 氏
 日 時:平成31年2月2日(土)15:00~18:00

第3回 【テーマ】やさしい日本語
 【内 容】やさしい日本語とは、やさしい日本語を使ってのコミュニケーションの手法等

松本会場
 講 師:信州大学 人文学部
 准教授 坂口 和寛
 日 時:平成31年2月3日(日)13:30~16:30

上田会場
 講 師:国立高専機構 長野高専
 非常勤講師 岡宮 美樹 氏
 日 時:平成31年2月16日(土)15:00~18:00

第4回 【テーマ】多文化コミュニケーション
 【内 容】異文化理解とは、多文化コミュニケーションとは、傾聴等

松本会場
 講 師:信州大学 教育学部
 教授 徳井 厚子 氏
 日 時:平成31年2月10日(日)13:30~16:30

上田会場
 講 師:信州大学 教育学部
 教授 徳井 厚子 氏
 日 時:平成31年2月9日(土)15:00~18:00

第5回 【テーマ】日本語学習を支援する者としての心得
 【内 容】日本語交流員としての心得、役割分担、情報収集の方法、個人情報保護・管理、実践演習等

松本会場
 講 師:特定非営利活動法人 中信多文化共生ネットワーク
 日本語教育アドバイザー 佐藤 佳子 氏
 日 時:平成31年2月24日(日)13:30~16:30

上田会場
 講 師:国立高専機構 長野高専
 非常勤講師 岡宮 美樹 氏
 日 時:平成31年3月2日(土)15:00~18:00

**必要事項をご記入の上、
 FAXまたはメールで申し込みください。**

長野県国際課多文化共生係
 FAX:026-232-1644
 E-mail:kokusai-c@pref.nagano.lg.jp

申 込 書			
御 希 望 の 会 場	上田会場 ・ 松本会場		
お 名 前 (ふ り が な)			
ご 住 所			
ご 連 絡 先	TEL	E-mail	
性 別	男 ・ 女	年 齢	歳
申 し 込 み 動 機 (自 由 記 載)			
日 本 語 学 習 支 援 経 験 (該 当 に ○ を し て く だ さ い)	未経験・1年未満・1年~5年未満・5年~10年未満・15年以上		
連 絡 欄			



「この事業は、文化庁「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」を長野県が受託し実施するものです。」

令和元年度 長野県日本語交流員養成

全5回

初期研修会 受講者

募集

長野県内には、現在、約35,000人の外国人の方が暮らしています。
 外国人の方の中には、地域で安心して生活し、地域の一員として活躍することを目指し、日本語を学びたいとする方がたくさんいます。
 日本語交流員として、日本語習得を目指す方の学びを支援しながら、一緒に外国人の方との共生社会の実現を目指しませんか！？

日本語交流員とは

日本語を指導する日本語教師と協力しながら日本語習得のお手伝いをする方です。
 また、外国人が地域で安心して生活できるよう地域に溶け込むサポートを担っていたく方です。（日本語教師とは違います）

日本語交流員

地域住民

外国人

サポート

学習支援

指導

日本語

連携

日本語教師

日 時

長野会場 令和元年10月5日(土)、10月26日(土)、11月9日(土)、11月23日(土)、12月7日(土)
 全日共通 午後0時30分から午後3時30分まで（3時間）

伊那会場 令和元年10月6日(日)、10月27日(日)、11月3日(日)、11月17日(日)、11月24日(日)
 全日共通 午後1時から午後4時まで（3時間）

会 場

長野会場 もんぜんぶら座(長野市新田町1485-1)

伊那会場 伊那市生涯学習センター(いなっせ)(伊那市荒井3500-1)

対 象 者

地域住民の意識を変えていく重要な役割ができ、多文化共生に興味のある者

※ 日本語学習支援の活動の経験や資格有無、国籍等は問いません

定 員

各会場20名 ※ 定員を超えた場合は書類選考を行い、受講者を決定します

申 込 期 間

令和元年9月2日(月)午前9時から令和元年9月13日(金)午後3時まで

そ の 他

- 全5回出席された方には、修了証をお渡しいたします。
- 内容、申込みについては裏面を、詳細については下記ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kokusai/sangyo/kokusai/tabunka/tabunka/nihongo.html>

主催：長野県 協力：長野市（長野会場）、伊那市（伊那会場）

【お問い合わせ先】

長野県国際課多文化共生係

TEL 026-235-7165

E-mail kokusai-c@pref.nagano.lg.jp

日本語交流員の役割と多文化共生(学習者の背景に対する理解)
～日本語交流員の役割を学ぶとともに多様性を認め合おう～

長野会場

講師:公益財団法人長野県国際化協会
副理事長 春原 直美 氏

伊那会場

講師:武蔵野大学大学院 言語文化研究科
准教授 神吉 宇一 氏

日本語学習に対する長野県、地域の独自性
～どんな特徴があり、どんな日本語教室があり学習者がいるのかを知ろう～

長野会場

講師:上田女子短期大学 総合文化学科
学科長 大橋 敦夫 氏

伊那会場

講師:公益財団法人長野県国際化協会
副理事長 春原 直美 氏

やさしい日本語
～言語としてやさしい日本語って何。どう使うの?～

長野会場

講師:国立高専機構 長野高専
非常勤講師 岡宮 美樹 氏

伊那会場

講師:国立高専機構 長野高専
非常勤講師 岡宮 美樹 氏

多文化コミュニケーション
～コミュニケーションから相手の文化を尊重しよう～

長野会場

講師:信州大学 教育学部
教授 徳井 厚子 氏

伊那会場

講師:信州大学 教育学部
教授 徳井 厚子 氏

日本語交流員として
～活動を想定し実践してみよう～

長野会場

講師:公益財団法人長野県国際化協会
副理事長 春原 直美 氏

伊那会場

講師:公益財団法人長野県国際化協会
副理事長 春原 直美 氏

受講の申し込みは電子申請で

次のURLまたはQRコードから申込書の画面にアクセスし、お申込みください。
【https://s-kantan.jp/pref-nagano-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=4694】

※ 受講の可否につきましては、**令和元年9月20日(金)午後5時までに**
登録いただいたメールアドレスに連絡をさせていただきます。





令和2年度 全5回 9/4 募集中 長野県日本語交流員養成 初期研修受講者募集

長野県内には、現在、約37,500人の外国人の方が暮らしています。
その中には、地域の一員として活躍すること、そのためにも日本語を学ぶことを望んでいる方々が大勢います。
日本語交流員として、地域とのつながりのサポートや日本語学習の支援をしながら、多文化共生の地域づくりを目指してみませんか。

この事業は、文化庁「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」を長野県が受託し実施するものです。

日時・会場

実施日	時間	会場
令和2年9月26日(土)	午後1:30~午後4:30	駒ヶ根市市民交流活性化センター アルパ 3階 多目的ホール(駒ヶ根市中央3-5)
令和2年10月3日(土)	午後1:30~午後3:00	オンライン会議システムによる研修
令和2年10月24日(土)	午後1:30~午後4:30	駒ヶ根市市民交流活性化センター アルパ 3階 多目的ホール(駒ヶ根市中央3-5)
令和2年11月7日(土)		
令和2年11月14日(土)		

※裏面もご覧ください。

対象者

地域住民の意識を変えていく重要な役割ができ、多文化共生に興味のある者
※日本語学習支援の活動の経験や資格有無、国籍等は問いません

定員

20名 ※定員を超えた場合は書類選考を行います

申込期間

令和2年8月24日(月) 午前9:00から
令和2年9月4日(金) 午後3:00まで
申請方法は裏面にをご覧ください。

その他

原則として、全5回出席してください。4回以上出席された方には、修了証をお渡しいたします。
詳細については裏面及びホームページをご覧ください。
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kokusai/r2jigyoyou.html>



日本語交流員とは

日本語を指導する日本語教師と協力しながら日本語学習のお手伝いをする方です。
また、外国人が地域で安心して生活し、活躍できるよう地域に溶け込むサポートを担っていただく方です。
※日本語教師とは異なります

主催：長野県 協力：駒ヶ根市

【申込み・問合せ先】

長野県県民文化部文化政策課多文化共生・パスポート室

TEL 026-235-7173

E-mail tabunka-c@pref.nagano.lg.jp

日本語交流員として ～活動を想定してみよう～

日 時：令和2年9月26日（土） 午後1：30から午後4：30まで
場 所：駒ヶ根市市民交流活性化センター アルパ 3階 多目的ホール（駒ヶ根市中央3-5）
講 師：特定非営利活動法人 中信多文化共生ネットワーク 日本語教育アドバイザー 佐藤 佳子 氏

日本語交流員の役割と多文化共生（学習者の背景に対する理解） ～日本語交流員の役割を学ぶとともに多様性を認め合おう～

日 時：令和2年10月3日（土） 午後1：30から午後3：00まで（事前課題あり）
場 所：オンライン会議システムによる実施のため、各自在宅等での実施（※）
講 師：武蔵野大学 グローバル学部 日本語コミュニケーション学科 准教授 神吉 宇一 氏

長野県、地域の独自性 ～どんな特徴があり、どんな日本語教室があり、学習者がいるのかを知ろう～

日 時：令和2年10月24日（土） 午後1：30から午後4：30まで
場 所：駒ヶ根市市民交流活性化センター アルパ 3階 多目的ホール（駒ヶ根市中央3-5）
講 師：上田女子短期大学 総合文化学科 学科長 大橋 敦夫 氏

やさしい日本語 ～言語としてやさしい日本語って何。どう使うの？～

日 時：令和2年11月7日（土） 午後1：30から午後4：30まで
場 所：駒ヶ根市市民交流活性化センター アルパ 3階 多目的ホール（駒ヶ根市中央3-5）
講 師：信州大学 人文学部 人文学科 准教授 坂口 和寛 氏

多文化コミュニケーション ～コミュニケーションから相手の文化を尊重しよう～

日 時：令和2年11月14日（土） 午後1：30から午後4：30まで
場 所：駒ヶ根市市民交流活性化センター アルパ 3階 多目的ホール（駒ヶ根市中央3-5）
講 師：信州大学 グローバル推進センター 日本語講師 岡宮 美樹 氏

（※）オンライン会議システムを利用するため、インターネットに接続できる環境及びマイク・カメラが必要です。また、通信料等の費用は受講者負担となります。ご自宅でオンラインによる受講が難しい場合は、応募時、指定の入力欄にその旨ご記入ください。

受講の申込みは電子申請で

令和2年9月4日（金）午後3時まで

次のURLまたはQRコードから申込書の画面にアクセスし、お申込みください。



【申込先URL】 https://s-kantan.jp/pref-nagano-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=8361

※受講の可否につきましては、**令和2年9月11日（金）午後5：00まで**に登録いただいたメールアドレスに連絡をさせていただきます。



新型コロナウイルス感染症対策について

感染症拡大防止のため、集合形式での研修の際は、検温、マスクの着用、接触確認アプリの導入、連絡先の聴取、体調不良時の欠席等をお願いすることになりますので、予めご承知おきください。また、感染拡大状況によっては実施方法の変更（例：集合形式の回をオンライン形式に切り替える）や中止の可能性があります。なお、集合形式での実施の際、研修会場では定期的な換気、アルコール手指消毒液の配置等の対策を行います。

©長野県アルクマ

修了証書

《修了者》様

あなたは〇〇年度日本語学習支援者養成・研修カリキュラム開発事業において日本語交流員養成初期研修を修了されたことを証します

〇〇年〇月〇日

長野県知事

修了証書

《修了者》様

あなたは〇〇年度日本語学習支援者養成・研修カリキュラム開発事業において日本語交流員養成スキルアップ研修を修了されたことを証します

〇〇年〇月〇日

長野県知事

令和2年度 長野県日本語教育大会

テーマは「日本語交流員」と「地域日本語教育」

長野県では、地域の日本語教室が多文化共生の拠点となることで、外国人県民の地域における活躍の促進を目指しています。

そんな日本語教室において、日本語学習の支援と地域とのつながりのサポートを担う存在を「日本語交流員」とし、平成30年度から養成を進めてきました。

日本語交流員が実際にどのような活動をしているのか、またこれからの地域日本語教育に求められるものは何なのか、多様な立場の方々からお話をうかがいます。

プログラム

10:00～10:10

開会

長野県日本語交流員養成事業の説明

10:10～10:35

基調講演

武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科

准教授 神吉 宇一 氏

神吉 宇一 (かみよし うち)

九州・小倉出身。社会人のキャリアを小学校教員から始め、正規非正規30以上の職を経て2013年から大学教員に。2016年4月より現職。

日本語教育学会副会長、文化審議会国語分科会日本語教育小委員会委員、文化庁委嘱地域日本語教育アドバイザーを始め、委員等多数。長野県日本語交流員養成事業に事業当初から運営委員、研修講師等として携わる。主な著書に『Education Abroad: Bridging Scholarship and Practice』(2020 Routledge、共著)他多数。



10:35～10:55

事例発表

駒ヶ根市総務部企画振興課 課長補佐兼地域振興係長 福澤 修 氏
地球人ネットワークinこまがね 高森 アナ氏、藤井 佳代 氏

～休憩～

11:00～12:00

パネルディスカッション

神吉 宇一 氏、福澤 修 氏、高森 アナ 氏、藤井 佳代 氏
加納 けい子 氏、美甘 直子 氏、佐藤 佳子 氏

出演者のプロフィールは裏面をご覧ください

お申込みはこちらから

2021年2月17日(水)まで

次のURLまたはQRコードから申込書の画面にアクセスし、お申込みください。後日、登録いただいたメールアドレスに当日のURL等を連絡をさせていただきます。



https://s-kantan.jp/pref-nagano-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=10961

プロフィール



行政
ふくざわ おさむ
福澤 修
駒ヶ根市役所総務部企画振興課課長補佐(兼)地域振興係長係担当業務として、多文化共生、国際交流、JICA海外協力隊連携、地方創生の生生活躍のまちの推進などに取り組む。



教室運営 & 日本語交流員
たかもり あな
高森 アナ
「地球人ネットワークinこまがね」で会長を務める。ペルー出身。29年前に来日。結婚してから駒ヶ根に住んでいる。子どもが2人。



教室運営 & 日本語交流員
ふじい かよ
藤井 佳代
「地球人ネットワークinこまがね」で事務局を務める。日本語教室ボランティア、交流イベント、生活情報の学習など、楽しみながら参加している。



日本語交流員
かのう けいこ
加納 けい子
長崎県出身。1996年結婚を機に東南アジアで暮らし、2018年に帰国。海外経験を活かし、在住外国人の支援をしたい思いで交流員研修に参加。



日本語交流員 & 日本語教師
みかも なおこ
美甘 直子
日本語ボランティア6年目。2019年日本語交流員研修修了、2020年より日本語教師としても活動。地域の日本語教室に幅広く取り組みたい。



コーディネーター & 日本語教師
さとう よしこ
佐藤 佳子
長野県「日本語学習の総合的な支援体制づくり推進事業」総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーター。県内専門学校やEPA介護福祉士候補者日本語研修でも講師を務める。



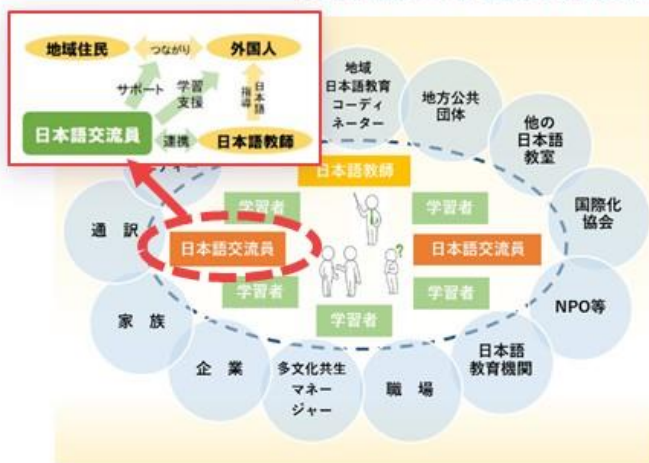
事業運営委員 研修講師 等
かみよし うち
神吉 宇一
武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科 准教授。日本語教育学会副会長、文化審議会国語分科会日本語教育小委員会委員、文化庁委嘱地域日本語教育アドバイザーを始め、委員等多数。

多様な出演者による大会に
ぜひ参加ください



長野県H30キャラクター「ブルク」
©長野県庁/ルクマ

長野県日本語交流員養成事業について



2018 (H30) 年度から、文化庁の「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」を受託し、「日本語交流員」の養成を進めている。日本語交流員は長野県が目指す「地域日本語教室を多文化共生の拠点とした地域づくり」の担い手として、外国人の日本語学習及び外国人と地域のつながりをサポートする存在。これまでに県内各地(長野・松本・上田・伊那・駒ヶ根)で117名が全5回の養成研修を修了し、日本語交流員となった。

日本語教室では...
外国人の発話を促す存在として日本語学習の定着を支援するとともに地域について伝えてもらう
地域では...
外国人の身近な存在として地域の外国人と積極的に関わり、地域コミュニティや日本語学習の場と外国人のつなぎ役を担い外国人の活躍をサポート

この事業は、文化庁「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」を長野県が受託し実施するものです。

【問合せ先】
長野県県民文化部文化政策課多文化共生・パスポート室

TEL 026-235-7173
E-mail tabunka-c@pref.nagano.lg.jp